

SCOUTING

No.571 スカウティング 2000 12

ボーイスカウト日本連盟写真集 [フォトCD]

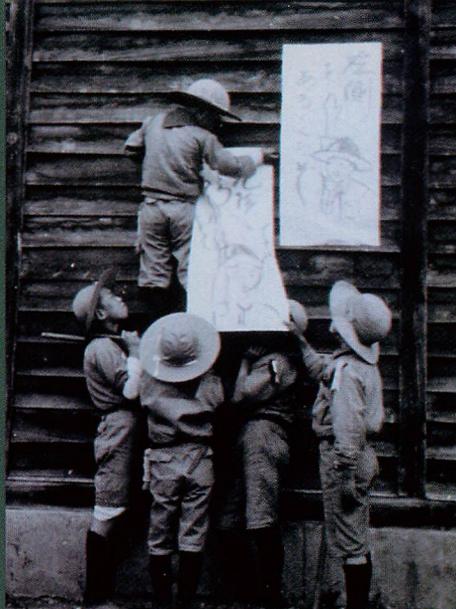
21世紀へ受け継がれる精神
スカウト運動の原点

National
Moot2001



財団法人
ボーイスカウト日本連盟

20th century ボーイスカウトの世紀



この写真集は、廣瀬文一理事(当時、現・相談役)から贈呈されたものであり、同理事がボーイスカウト日本連盟創立75周年にあたり、日本連盟が保管する貴重な写真・資料等が褪色あるいは劣化あるいは散逸することなく次代に引き継がれるよう、これらの資料を年代順に配列し、我が国のスカウト運動の歩みを学び、また、いつでもこれらの資料を活用できることを願って作成したものです。



ボーイスカウト日本連盟写真集「フォトCD」

スカウト運動の歴史を振り返る

- 第1巻 明治41年～大正14年
- 第2巻 大正14年～昭和15年
- 第3巻 昭和20年～昭和31年
- 第4巻 昭和31年～昭和63年
- 第5巻 人物編



世界のスカウト：イギリス

SCOUTING

12 DECEMBER

2000

風の音

21世紀に向けて

岐阜・岐阜第21団ボーイ隊長 今井芳紀

私は教師をしているため、子どもに、教師という立場とスカウトという立場と両方から接する機会があります。私の学校に一人のスカウトがいます。彼が何かつまらなそうな顔をして学校で過ごす姿をよく見かけます。しかし、たまにスカウトラリー等で彼を見かけると、明るい表情で仲間と協力しながらゲームを行っているのです。学校ではほとんど見せたことのない、生き生きとした姿をスカウト活動のときには見せているのです。

近年、学校と家庭そして地域との連携ということが言われるようになりました。子どもを学校という枠だけで捉えるのではなく、家庭はもちろんのこと、地域という場でも子どもたちを見ていくことが必要になってきました。そうした地域の場の一つとして、スカウト活動はとても意義のある活動だと思っています。21世紀を担う今の子どもたちが一人でも多く、生き生きとした表情でスカウト活動を行えるようにしていきたいと、改めて感じています。

スカウティング No.571

特集 フォトCDで振り返る

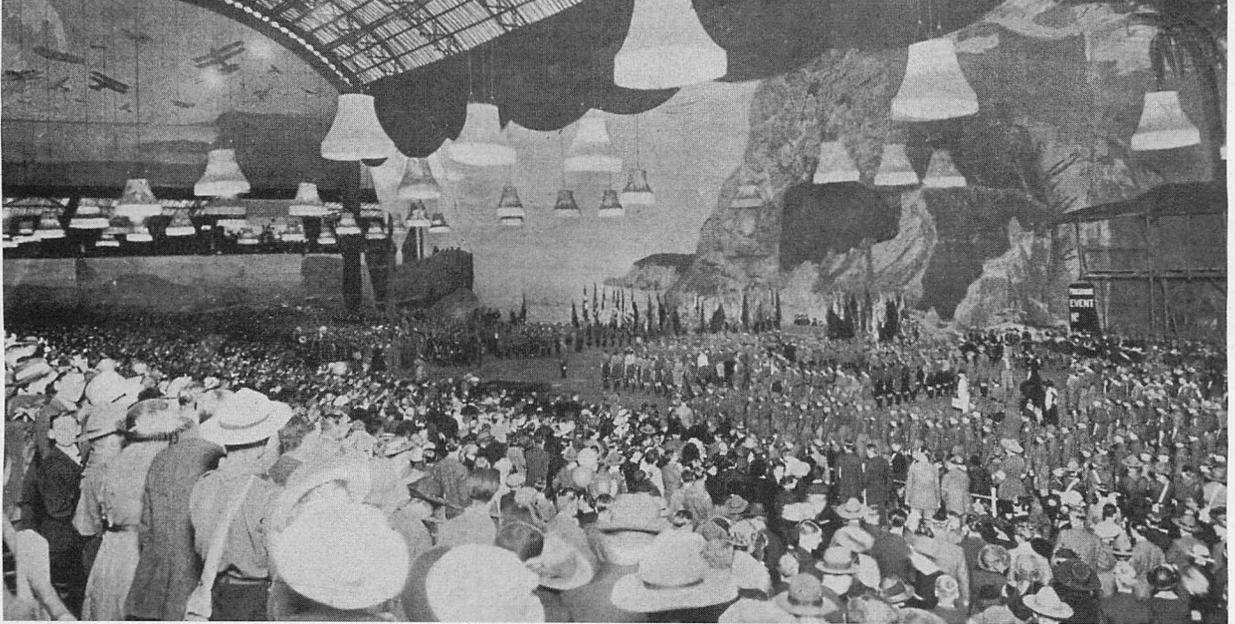
20世紀の日本のボーイスカウト

| | | |
|-----|--------------------------------------|----|
| 投稿 | BS★泣き笑い劇場 | 14 |
| 国際 | 国際交流 | 16 |
| 投稿 | 活動紹介 | 18 |
| 反省 | 5NV活動基地一ご迷惑おかけしました アポなし取材 | 22 |
| 活動 | Beaver's Forum | 23 |
| 活動 | カブスカウト・プログラム | 24 |
| 活動 | ローバー通信 誌上ローバームート | 26 |
| 国際 | World News | 28 |
| 募集 | BS活動に関わるみんなで作る月刊誌 | 29 |
| 情報 | NEWS BSN ー日本連盟からのお知らせ | 30 |
| 情報 | 書籍紹介 | 30 |
| 紹介 | SCOUTING BACK-NUMBER | 31 |
| 情報 | 山中野営場 平成13年度夏季利用申し込み | 32 |
| 情報 | 貸出映像資料 | 33 |
| 投稿 | 新聞に載ったぞ | 34 |
| 紹介 | ボーイスカウト運動のために ～維持会員加入のご案内～ | 34 |
| 募集 | 第28回全国ボーイスカウト写真コンテスト 作品募集 | 35 |
| 信仰 | 隊長への手紙 信仰心を育むために | 36 |
| 歴史 | BS歴史探訪 ー20世紀のあしあとー | 37 |
| 連載 | 団の広報 編集人伝説 | 38 |
| 付録 | スカウティング2000 索引 | 40 |
| P R | スカウト運動の歴史を振り返る ボーイスカウト日本連盟写真集【フォトCD】 | 2 |
| 需品 | 需品部ニュース | 43 |

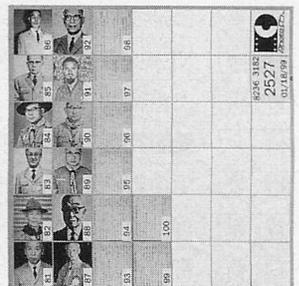


1920

フォトCDで振り返る 20世紀の日本のボーイスカウト



21世紀へ受け継がれる精神 スカウト運動の原点



「ボーイスカウト日本連盟写真集」と聞いても、ピンとこない加盟員の方も多いことと思います。これは、現存する、日本のボーイスカウトに関連した貴重な資料をまとめたものなのですが、写真集といってもアルバムのように印刷されたものではなく、フォトCDの形で、ディスクにデジタルデータとして収められているのです。一枚のCDに一〇〇点の写真資料が収められた全五巻。計五〇〇点の「歴史の証人」です。

財団法人ボーイスカウト日本連盟の七五周年の記念として、二年半の歳月をかけて完成されたこの写真集は、ボーイスカウトのすべてが収録されていると言っても過言ではありません。運動にとっては宝物であり、加盟員一人ひとりにとっても価値の高い財産と言えるでしょう。

しかし残念ながら、需品部で販売しているわけではありません。作られたフォトCDは、わずかに二セット。ただ、その存在すらほとんど知られていないフォトCDでは、まさに宝の持ち腐れになってしまいます。そこで、今世紀最後の『スカウティン



ボーイスカウト日本連盟写真集

01-055

1921



第1回世界ジャンボリー 開催会場

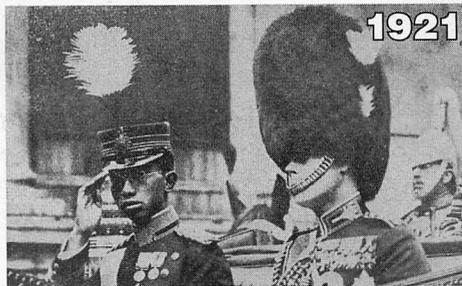
イギリス・ロンドンのオリンピア・クリスタルパレスの屋内で開催された。日本からは、小柴博、下田豊松、鈴木慎(英名リチャード鈴木)の3名が参加した。

「第1回世界ジャンボリーアルバム」

イギリスボーイスカウトの大集会における皇太子殿下(後の昭和天皇)。
上「皇太子殿下御外遊記」二荒芳徳・澤田節蔵著/下「日本ボーイスカウト運動史」

01-054

1921



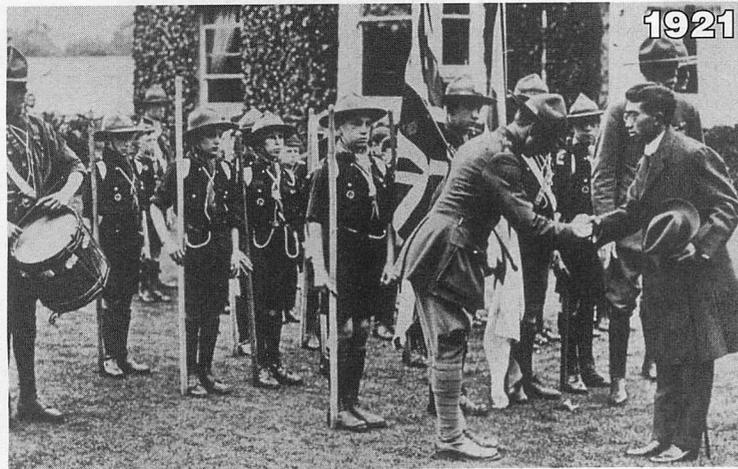
イギリス・ロンドン

訪英歓迎会に向かわれる皇太子殿下(後の昭和天皇)と、イギリス皇太子殿下。

「皇太子殿下御外遊記」二荒芳徳・澤田節蔵著

01-059

1921



HISTORY OF BOY SCOUT

グ」の特集では、幻のお宝写真を公開しながら、改めてスカウト運動の歴史を振り返ってみたいと考えました。

スカウト魂再発見

歴史年表を古い順に並べて、その年の事件や開催された行事、大会を羅列するだけであれば、さほど面白い記事になるはずはありません。それは、資料写真を古い順に並べても同じことでしょう。

このフォトCDは、資料センターに眠っていた古い写真を事務的、機械的にデジタルデータに置き換えただけのものではありません。膨大な資料の中から当時の様子を調べ上げ、コツコツと編纂していくという、きめの細かい作業が積み重ねられたのです。

歴史の時間の流れをタテ軸とするならば、ヨコ軸となる人間と人間の結びつき、そして運動を発展、普及させていくという信念と情熱、高い志、誇り、私たちの大先輩たちが生涯をかけて築かれた運動の礎。日々の忙しさに忘れかけている「スカウト魂」が脈々と流れていることを、改めて感じさせてくれます。

フォトCDで振り返る 20世紀の日本のボーイスカウト



01-001



秋月左都夫(あきづき さと)氏
〈ベルギー公使〉

「秋月左都夫—その生涯と文藻」黒木勇吉著

01-002

ベルギー駐節は翌四十二年の十一月までで、一年有余にすぎなかったが、この間外交事務の処理以外ボーイスカウトの研究をしてそれが、日本におけるボーイスカウトの創始の端緒をなしておけることは、有名な話である。

ベルギー駐節は翌四十二年の十一月までで、一年有余にすぎなかったが、この間外交事務の処理以外ボーイスカウトの研究をしてそれが、日本におけるボーイスカウトの創始の端緒をなしておけることは、有名な話である。

ボーイスカウトの日本連盟四代目の総長三島通暲は、秋月夫人の兄三島邦太郎(日本銀行総裁の時永暲)の長男であるが、昭和四十年二月、毎日新聞に掲載した「ボーイスカウト十話」の中で、左のごとく述べている。

「ボーイスカウトの日本における起源。：日本に初めてボーイスカウトを紹介したのは牧野伸顕(当時文相)、北条時敬(広島高等師範校長後に学習院長)、乃木希典(当時学習院長)の三人である。牧野は元米寸道(を惜しんで新刊書を読む趣味があったが、ボーイスカウトが英国にできた、その翌年の一九〇八年に、もうその本を得て読み、その特徴をつかんで魅力を感じた。これは義兄のベルギー公使秋月左都夫が、ボーイスカウトを実地に見て感心し、文相の牧野にその資料を送ってよこしたのだった。」

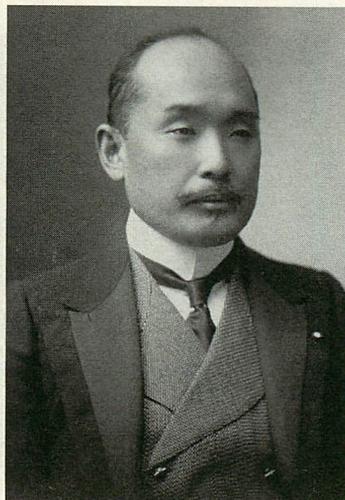
(黒木勇吉著「秋月左都夫—その生涯と文藻—」より)

「ベルギー公使とボーイスカウト」

1908年(明治41)、秋月氏がボーイスカウトに関心を持ち、これを研究して、義弟である当時の牧野伸顕文部大臣に資料を送った経緯が記述されている。

「秋月左都夫—その生涯と文藻」黒木勇吉著

01-003

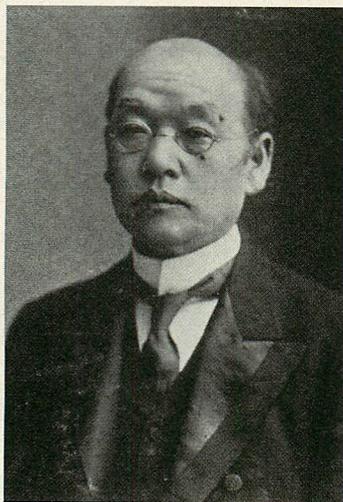


牧野伸顕(まきの のぶあき)氏

〈文部大臣〉
時の文部大臣牧野氏は、北條時敬氏に、ボーイスカウトについて、英国での調査を命じた。

牧野家所有(借用)

01-004



北條時敬(ほつじょう ときたか)氏
〈広島高等師範学校校長〉

北條氏は、イギリス・ロンドンで開催された第1回万国道德教育会議に日本代表として出席するに際し、牧野文部大臣から、イギリス滞在中ボーイスカウトに関する調査を依頼された。

「偉大なる教育者」北條時敬先生」上杉知行著

今回の特集では、できるだけ多くの写真資料を公開したいと考えました。

あなたはこれらの写真を見て、自分とは無関係な遠い過去の話だと思うでしょうか。それとも、現在の自分があるのは、創生期から代々受け継がれてきた精神によって支えられているのだと感じることができませんか。

スカウト運動とは何なのか、問い直してみるチャンスかもしれません。

初めて見る写真、初めて聞かされる人名、歴史的事実も少なくないはずです。スカウト史のタテ軸とヨコ軸の関係を知識として身につけることは、きっとあなたの活動に役立つはずです。

スカウト運動の原点

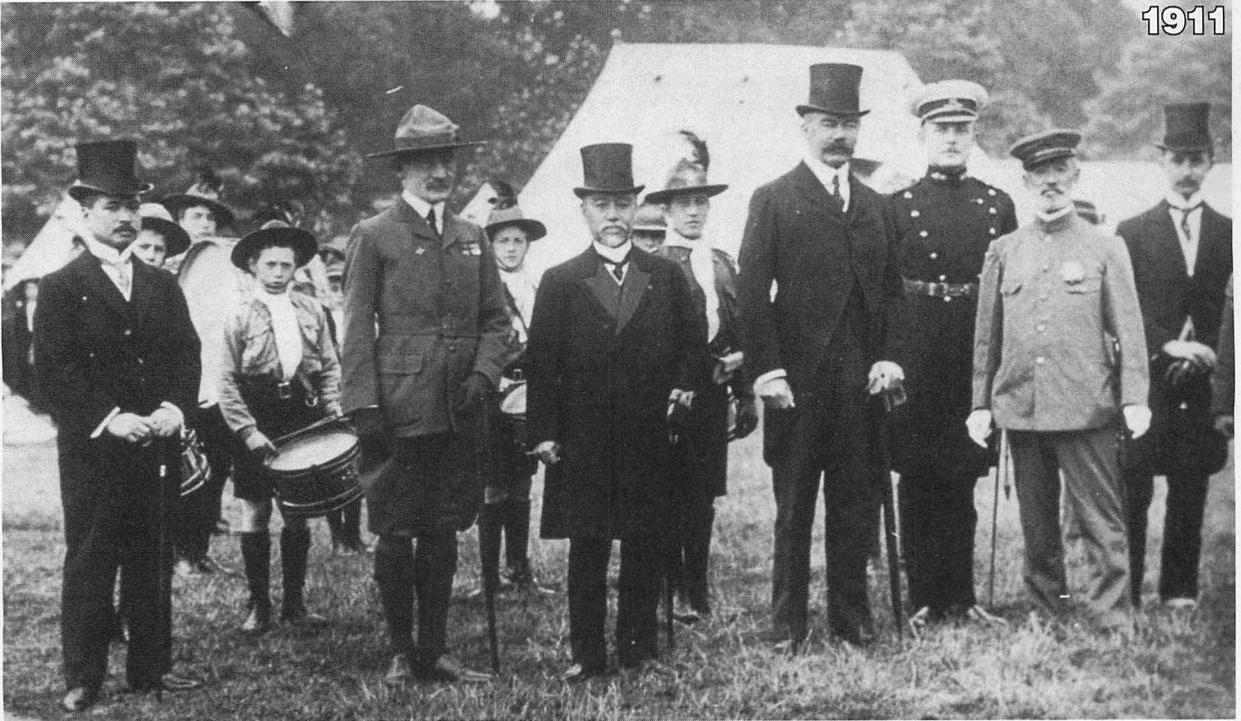
特集記事をまとめるにあたって、フォトCDを監修された廣瀬文一氏編集を担当された下田雅氏のお話を伺いました。「ボーイスカウト日本連盟写真集」の制作に直接携わられた両氏だけに、その思いもまた強く、深いものがありました。編集作業の苦勞話、資料を見直す中で新しく発見された事実や、これまであまり知られていなかったエピソード等、次か



ベーデン-パウエル卿と東郷、乃木両大将

01-008

1911



イギリス皇帝ジョージ5世の戴冠式に明治天皇のご名代として東伏見宮依仁親王、同妃殿下が差遣されたとき、東郷平八郎、乃木希典両大将が随行した。両大将は、ロンドンで、キッチナー元帥（ボア戦争時のイギリス軍司令官）およびB-Pに案内されて、スカウト活動を視察した。「日本連盟アルバム」

クリアランス・グリフィン氏

グリフィン氏は、横浜山手居留地に住み、同市海岸通りで雑貨商を営んでいた。在日外国人の子弟18名を集めてボーイスカウト隊を結成し、1911年（明治44）10月12日、横浜ゲーテ座において横浜ボーイスカウトの発隊式を行った。「日本連盟アルバム」



01-013

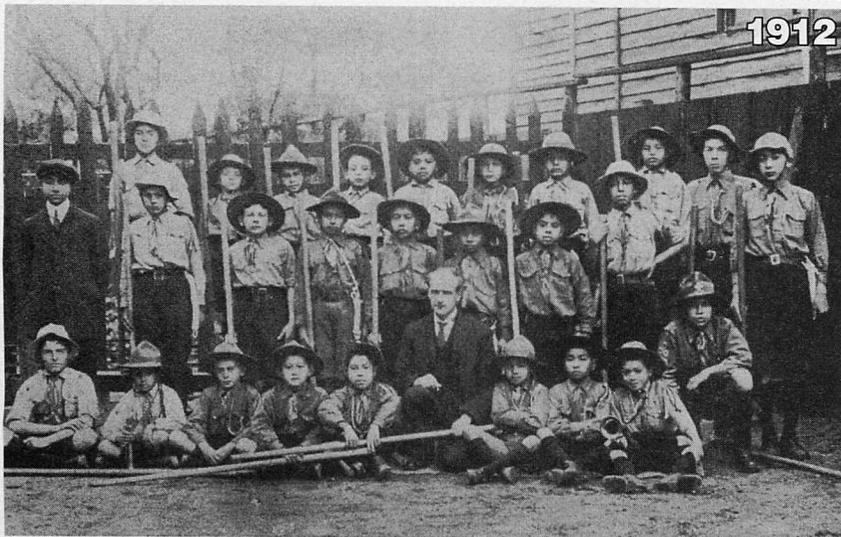
1911

ら次へとお話いただきました。
日本のボーイスカウト運動の始まりについては、大変興味深いものがありました。一九〇八年、ベルギー公使の秋月左都夫氏が、義弟に当たる当時の文部大臣・牧野伸顕氏に、「英国では、ボーイスカウトなるものが始まったらしい」と伝え、それを受けた牧野氏が、広島高等師範学校校長の北條時敬氏に、英国での調査を依頼したのです。

考えてみてください。ベーデン・パウエルがブラウンシー島で実験キャンプをやった翌年には、遠い東のはずれの島国にまでその情報が届いていたのです。通信の手段や報道のネットワーク網については、現代とは比べようのない時代なのです。それほど、ボーイスカウトの誕生、その教育理念が、社会にインパクトを与えたということなのでしょう。そしてまた、秋月氏に先見の明があり、運動の実体、精神が明確になるに従って、感銘を受ける人が増えていったということなのでしょう。

言葉も文化も違う国で始まった教育の運動が、なぜ、こんなにも早く

フォトCDで振り返る 20世紀の日本のボーイスカウト



01-015
1912

01-014

戦前の少年団

(明治44年～昭和15年)

神戸地方連盟生まれる

世界の総長バーデン・パウエル勲が神戸を訪れたのは1912年、明治45年4月7日であった。(同年8月から大正と変わる)

港は市内を見物して、深夜の船で海上に向かわれた。この時、ウォーカー先生に率いられた神戸のボーイスカウトが歓迎した。

着の日記には下記のとおり記されている。
Kobe: modern sea port alongside odd Jap Town Hyogo under very ravine wooded hills. Walker of local Boy Scouts met me.



神戸のボーイスカウト運動
創始者 F・ウォーカー氏

有「バーデン・パウエル伝」]

兵庫県のスカウト運動を回想し、将来の発展を決定する再建25周年に当たって、私たちはまずこの運動を創始されたバーデン・パウエル勲が親しく神戸の地に足跡を印せられたこと、そしてボーイスカウトが対出遇したことを銘記しておかねばならない。

フレデリック・ウォーカー氏は当時20歳。英國聖公会の牧師であり、イカニカ教会に仕え、そのかたわら英語を神戸に在住日本の青年に教えていた。バーデン・パウエル勲が対出遇したのは神戸ボーイスカウト隊であって、

フレデリック・ウォーカー氏(神戸ボーイスカウト隊創始者)

ウォーカー氏により、1912年(明治45)3月、神戸にボーイスカウト隊が発足した。ウォーカー氏は当時20歳。英国聖公会の牧師としてミカエル教会に仕え、日本の青年に英語を教えていた。ウォーカー氏は、在日外国人の子弟とともに、日本の少年も受け入れた。その少年の中に、戦前のボーイスカウト運動に尽力した、後の日本連盟先達・古田誠一郎氏もいた。

「兵庫ボーイスカウト25年のあゆみ」／「少年軍団教範」 深尾韶著

01-035

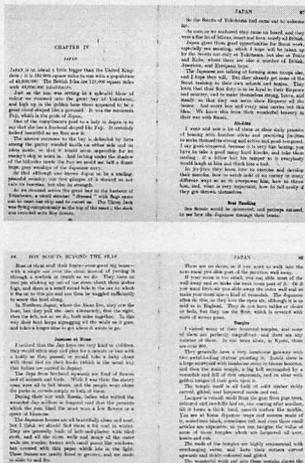
01-017, 018

01-016

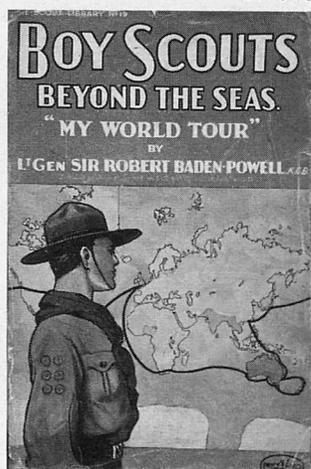


大日本少年団 記章制定
「少年団指針」東京少年団編

B・Pの「世界旅行記」より(日本の部)



B・Pの「世界旅行記」表紙
1912年(明治45)、B・Pは世界旅行に立ち、アメリカ各地での講演の後、シアトルからミネソタ号で日本へ向かった。4月2日、横浜港でB・Pを迎えたのは、グリフィン氏の横浜ボーイスカウト隊であった。



日本に受け入れられたのでしょうか。忘れてはならないのが、理念の普遍性、そしてもう一つ、日本の国を発展させるため、豊かにするために、青少年に対する真の教育が必要であるという潜在的ニーズが存在したこと。運動は、それを実現するために、私財をなげうち、生涯をかけて献身的な努力を捧げた人々の情熱に支えられていたのです。

もちろんそういった形で創生期の運動に尽力した方々の肖像も、フォトCDには取められています。そして、各県、各地域には、有名人・著名人ではなくとも、やはりボーイスカウト運動を普及させるため、少年たちのため生涯無償の奉仕を続けてくださった方々が数え切れないほどいるはずなのです。

少年たちのために無償で奉仕し、新しい日本の教育の礎となるべく道を切り開こうとする生き様は、スカウト精神そのものであり、運動の原点ともいえるでしょう。

使命感と誇り

「自分はスカウトである」という強



01-064

01-062

01-061



後藤新平 (ごとう しんぺい) 氏
〈少年団日本連盟 初代総裁〉
〔日本連盟アルバム〕



ボーイスカウト発祥記念の少年像。〔日本連盟アルバム〕



第1回全国少年団大会 開催会場

第1回世界ジャンボリー開催の成果や皇太子殿下(後の昭和天皇)が訪英中にエジンバラのボーイスカウトを前にして述べられた「おことば」が動機となって、日本におけるボーイスカウト運動の全国的な統一組織づくりが進められた。1922年(大正11)4月13日、第1回全国少年団大会が静岡市の城内小学校で開催され、ここに《少年団日本連盟》が発足した。
〔日本連盟アルバム〕

01-065



二荒芳徳 (ふたら よしのり) 氏
〈少年団日本連盟 初代理事長〉
〔日本ボーイスカウト 静岡連盟五十年史〕

01-069



東京・日比谷公園。少年団日本ジャンボリーにおける参加団の演技大会。

〔大日本少年団及日本ジャンボリー写真帖〕

い使命感が、日本での運動の土台となり、全国に拡がっていくのです。その後、世界大戦を経て、日本の教育の様子も変わっていききました。

創生期には発祥の地である英国を模範としていた日本のスカウト運動が、戦後は米国の影響を受けるようになりました。米国もまたスカウト運動の盛んな国ではありますが、両国の成り立ちというか、お国柄の違いもあり、うまくかみ合わない部分もあったようです。下田氏によると、組織は米国式、指導は英国式で、その間に生じる矛盾を調整するのが、日本式の知恵だということです。

また廣瀬、下田両氏は、「昔はよかつたというわけではない。時代や社会環境も違うから、現代と簡単には比較できないが、当時の指導者が持つていた使命感や誇りには学ぶべきものがあると思うし、受け継がれていってほしいと思う。規則や方法論を正確に伝えるためのマニュアルも大切だが、“魂”を伝えるということも忘れてはならない」というお考えを話されていました。

現在、ボーイスカウト運動は、あら



フォトCDで振り返る 20世紀の日本のボーイスカウト



01-083

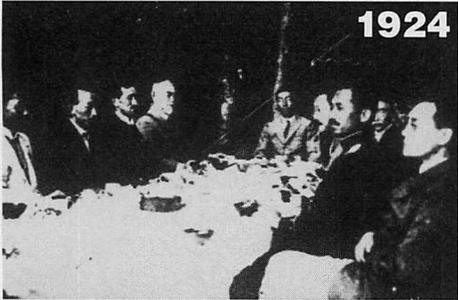
1924

第1回全国野営大会に秩父宮殿下で台臨

福島・猪苗代湖畔。陪食を賜る後藤総裁他役員(084)。磐梯山に登山される秩父宮殿下(085, 086)。「少年団研究」(第1巻第5号)

01-084

1924

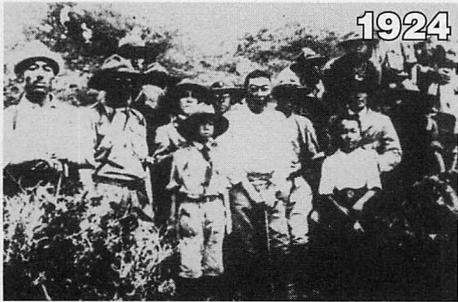


第2回世界ジャンボリー

デンマーク・コペンハーゲンで開催。日本派遣団による武道演技。「日本連盟アルバム」

01-085

1924



01-086

1924



連盟歌「花はかほるよ」制定
1924年(大正13)11月15日、文部省会議室において第1回全国総会を開催、総裁後藤新平氏を総長に推戴し、また、懸案となっていた連盟歌を制定した。「健児唱歌」少年団日本連盟

01-087



01-089

山田耕作
(やまだこうさく)氏
「花はかほるよ」作曲者
「日本連盟アルバム」



01-088

高原しげる
(くずはらしげる)氏
「花はかほるよ」作詞者
「日本連盟アルバム」



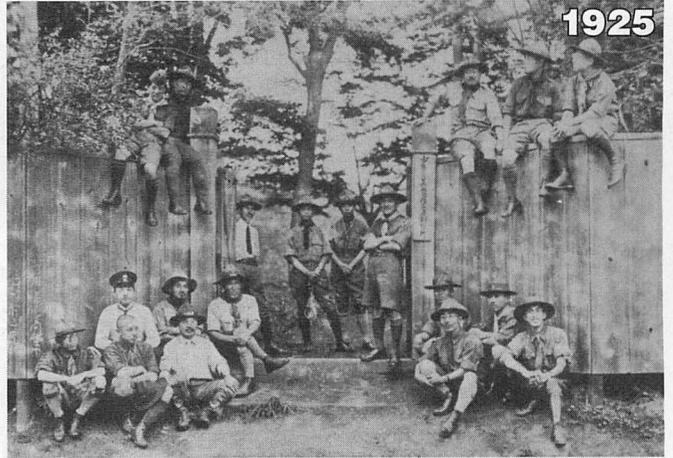
ゆる意味で変わろうとしてきています。これは日本だけでなく、発祥の地英国をはじめとする世界的な動きです。「規則や制度など、時代や社会の変化にあわせてどんどん変えていくべきだ」という考えと、「あくまでも伝統を守り、同じやり方を貫くべきだ」という考えが存在し、「スカウティング」誌上でも議論となったことがあります。大きな運動体にとっては、永遠のテーマかもしれません。

「だけど、変えていいものと思いつめる。スカウト運動の何を大切に守り、受け継いでいくべきなのか、どの部分を変えていくべきなのか、そこをどこを見失ってはいけない」

廣瀬氏の言葉に一段と力がこもりました。問もなく二一世紀。次の時代のために、私たちは何を守り、何を伝え、そして何を変えていくべきなのか。原点に帰るとはどういうことなのか。フォトCDの中には、そのヒントも収録されているのではないのでしょうか。上段で紹介しているキャプションを読んでいただくだけでも、何かを感じてもらえると思います。



1925



第1回指導者訓練所 門前に集う佐野所長と参加者

東京・高松宮御用地。第1回指導者訓練所となっているが、指導者養成の基礎作りのための実験キャンプともいえるもので、4月18日より5月24日まで、週末を使って5回実施された。なお、指導者訓練所は、後に「指導者実修所」と改められた。第1回指導者訓練所修了者は次のとおり。

佐野常羽、二荒芳徳、吉野順一、高瀬榮三、尾崎忠次、西村平太、寺岡一義、戸田和夫、三島通陽、福島四郎、深尾韶、細野浩三、芦谷泰造、田村喜一郎、白井茂安、本庄俊輔、原道太、奥寺龍溪、花田忠市郎、黒岩重男、藤山精一。「日本連盟アルバム」

02-023

1925

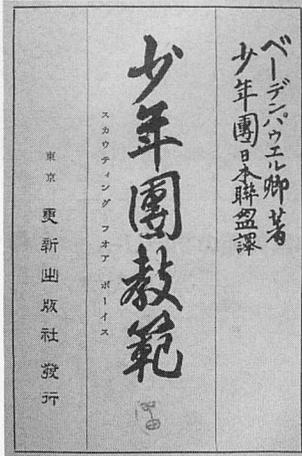


第2回全国野営大会

山梨・山中湖畔。参加スカウトを視閲する後藤総長。
「少年団日本連盟第貳回野営記念写真帖」

02-045

和訳SFB



「少年団教範」刊行
1925年(大正14)。「スカウティング・フォア・ボーイズ」の和訳・日本語版。第2回世界ジャンボリーの参加者の中から数名が翻訳に当たった。
日本連盟所有

02-051

1925



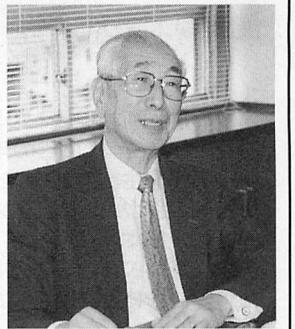
秩父宮殿下とB-P

秩父宮殿下は、5月24日、御召艦・出雲にて渡英され、12月4日、イギリスのボーイスカウト本部をご訪問、親しくB-Pと少年団について語り合われた。

「日本連盟アルバム」

廣瀬文一 (ひろせあやかず)

「フォトCD」監修



大正3年5月21日生

大正13 横浜少年義勇団に入団

昭和4 第3回世界ジャンボリー参加

昭和31 日本連盟名誉役員

昭和32 日本連盟理事

昭和35 東京第171団設立、同団委員長

昭和48 日本連盟中央審議会議員

昭和49 東京連盟理事

昭和51 東京連盟副理事長

昭和58 日本連盟中央審議会議長

昭和59 東京連盟理事長

現在、東京連盟連盟長代行、副連盟長、日本連盟相談役

下田雅 (しもだただし)

「フォトCD」編集



元日本連盟資料センター課長

戦後初のボーイスカウト隊(試験隊)発足

東京・成城学園。1946年(昭和21)、東京ボーイスカウトクラブの名称で再建のための会合を重ね、GHQより条件付きではあるが再建の内諾を得たので、臨時中央本部を設立し、本格的な準備に取りかかった。1947年(昭和22)1月、GHQより付された条件に従って、試験隊(ボーイスカウト隊)を東京に5隊、横浜に1隊結成した。成城学園の隊が、東京第1隊として活動を開始した。
 「日本連盟アルバム」



03-016



第1回全日本ボーイスカウト全国大会

東京・皇居前広場。加盟隊530ご隊、スカウト数1万名を超えるに至った連盟は、この期に参加できる隊を受け入れて、大会を開催した。天皇・皇后両陛下、皇太子殿下(現・天皇陛下)、義宮殿下のご台臨を仰ぎ、日比谷公園において、技能大会を催した。三笠宮殿下ご夫妻もご見学に見えられた。
 「日本連盟アルバム」

東京・明治神宮外苑の初ラリー

03-004



03-005



再建を記念して、6ご隊合同ラリーが開催された。活動を
 ご覧になる皇太子殿下(現・天皇陛下)
 「日本連盟アルバム」

ジュビリー・ジャンボリー

04-008



イギリス・サットンコールドフィールド。世界ジャンボリーは通常4年ごとの開催だが、第8回世界ジャンボリーから2年後のこの年、スカウト運動創始50周年およびB-P生誕100年を記念し、第9回世界ジャンボリー(ジュビリー・ジャンボリー)が開催された。日本連盟は、日本派遣団サイトを訪問されたレディ・ベーデン・パウエルと、ご子息ピーター・ベーデン・パウエル氏にきじ章を贈呈した。
 「日本連盟アルバム」

03-095



第1回日本ジャンボリー

長野・軽井沢。皇太子殿下(現・天皇陛下)をお迎えしての大パレード。これまでの「全国大会」を改称し、日本における最初のジャンボリー「第1回日本ジャンボリー」が開催された。浅間山を望むジャンボリー会場には、海外からのスカウトを含め13,000名が集い、各所に交歓の花が咲き、歓声が高まりました。
 「日本連盟アルバム」

1962



レディ・ベーデン・パウエル来日

レディ・ベーデン・パウエルは、ガールスカウト日本連盟の招きを受けての初来日。東京・海運クラブでの記念講演会終了後、二荒総コミッショナーと親しく握手を交わした。後ろは三島総長。 [日本連盟アルバム]

1962



アジアジャンボリー (第3回日本ジャンボリー)

静岡・御殿場。皇太子、同妃両殿下(現・天皇、皇后両陛下)は、スカウトの歓迎に手を振ってお応えになった。

[アジアジャンボリー(第3回日本ジャンボリー)記録帖]

皇太子殿下(現・天皇陛下)ご一家をお迎えして

静岡・御殿場での第7回日本ジャンボリー。皇太子ご一家がお揃いでジャンボリーにおいでくださったのは今回が初めてであり、参加者一同温かくお迎えした。会中には福田首相もお孫さんを連れて見学に来られた。なお、ジャンボリー期間中に、植村甲午郎総裁死去の訃報が「ジャンボリー新聞」にて知らされた。 [第7回日本ジャンボリー記念アルバム]

04-089

1978



1971



第13回世界ジャンボリー

静岡・朝霧高原。ワイドゲームに参加した各国スカウト。“そなえよつねに”の7文字が全部揃うように仲間を集め、相互理解と友好親善に役立てるゲームが、会場内全域にわたって展開された。

[13TH WORLD JAMBOREE]

☑ 今月の特集に対する皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。ご紹介させていただいたのは、ほんの一部にすぎません。今後の参考とさせていただきますので、資料公開に関するご要望等も、あわせてお寄せください。

(財)ボーイスカウト日本連盟 組織部広報課 資料センター
TEL 0422-31-5163/FAX 0422-32-0010

ビーバースカウト隊発足

1975年(昭和50)8月、デンマーク・コペンハーゲンで開催された第25回世界会議において、「カブ年齢未満児層の少年のニーズとプログラムと加盟組織全体との関係について注意深く研究するよう切望する」との決議がなされた。これを受けて、日本連盟では特別委員会を設置して検討に入った。特別委員会では実験隊を編成して調査研究を重ね、その結果を中央審議会に答申、中央審議会はビーバースカウトとして小学校低学年の児童の加入を昭和60年度の全国会議に提案し、承認を得、ビーバースカウト隊が発足した。 [日本連盟アルバム]

04-099

1986



スカウトユニフォームで結婚披露宴!

愛知・岡崎第一〇団ローパー隊長 鈴木市男



一九九八年二月号本誌「ローパー通信」技能五輪金メダル」に登場した田上俊一くんが、本年九月一六日結婚しました。当日の田上くんは、生涯の伴侶を得て喜色満面…と、こまではどこにでもある話。

びっくりしたのは披露宴のこと。お色直して登場した新郎は、何とスカウトのユニフォーム姿。出席者がびっくりしたのはもちろん、招待されていた当団の関係者も目が点になりました。が、同時に「ウォー」と大歓声があがったのは言うまでもありません。後で話を聞いたところ、このプランは二人で決め、新郎・新婦のご両親も知らなかったそうです。私は涙で目の前が霞み、関係者の一人として本当に嬉しく思いました。

カブスカウトから現在まで、スカウトとして頑張っている田上くんの、生活に占めるスカウティングの割合を確認し、指導者冥利に尽きた一日でした。

田上くん、おめでとう。幸せに!

スカウトいつもの会 大盛会

東京・新宿地区副委員長

青木勝彦



九月一日、緑の皇居を望むパレスホテルにおいて、スカウトいつもの会（根岸真太郎会長／日本連盟相談役）の例会が開かれ、百名からのメンバーが集い、盛り上がりました。席上櫻内義雄元衆議院議長に、永年にわたるBS振興国会議員連盟名誉会長としての活動に対して、感謝の意味を込めた記念品が渡されました。また、橋本龍太郎元総理大臣より、いろいろなエピソードが披露され、会場は笑いの渦に包まれました。



ひと休み

宮城・仙台第12団ボーイ隊長
横橋 隆

夏の班ハイキングのひとこま。
無事指導者と合流し、ほっとしたところで、ちょっとひと休み。



栃木県女性リーダーのおしゃべり会開かれる

栃木・栃木第二団ボーイ隊副長 平本重子

九月三〇日、ボーイスカウトをこよなく愛する一九名の女性リーダーが集まり、おしゃべりに花を咲かせました。これは県内の女性リーダー同士の交流を図り、親睦を深めるという趣旨のもと開いたものです。

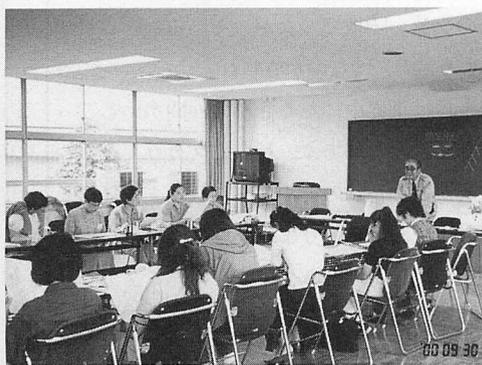
おしゃべりの内容はといいますと、

自隊の活動 プログラムの悩み、欠席スカウトへの対応、若手リーダーの育成、社会・保護者へのボーイスカウトの理解と協力、少人数の隊と大人数の隊の利点・欠点、女性リーダーの利点・欠点：等々、実に真面目



目なことばかりでした。悩み、意見解決策：一人で考えていたら行き詰まってしまうですが、一人集まれば一九人の意見があります。そして、活発なおしゃべりの中でそれぞれが自分の答え、解決の糸口を見つけたように思われました。

おしゃべりの後は、副理事長の森山さんのお話を聞きました。スカウティングの精神のみならず、「自分さしの旅」「問のつばやき」：人生の指針となるようなお話をいただき、継続的に聞きしたいとの声も挙が



つたほどです。参加した皆さんからは、女性に限らず男性リーダーともこのような機会をまたもちたいの意見をいただきました。栃木県の女性リーダーは、現状に甘えるだけでなく、常に前向きで向上心のある方が多いと実感させられた一日でした。そして、今までの仲間を大切に、これからも多くの仲間を増やし、ともに喜びを分かち合いながらボーイスカウト運動に取り組んでいきたいと改めて思いました。



海外旅行体験と指導者養成

アメリカへの旅行では、広大な自然、社会、生活を見学、学習体験し、見聞を広めることを目的とし、期間は2週間と定め、サンフランシスコベイエリア地区のロイネキャンプ場(1925年創設)で、BSAのキャンプカリキュラムに則った野営活動を1週間単位で体験した。参加アメリカスカウト約500名とともに生活交流を図り、「スカウトはすべて兄弟である」ことを身をもって知ることに努めている。

野営の後はサンフランシスコ第58隊の家庭に3日間のホームステイを依頼し、アメリカの家庭生活を体験しながら、国際交流を図っている。ホームステイ終了後は、実施年度によって若干異なるが3日間程度の小旅行を行う。体験を有意義なものとするべく、指導者群は毎回苦心しながらプログラム化している。

1999年に第7回スカウト海外旅行が終了し、現在は2003年の第8回に向けて準備作業が進行中である。これまでの参加者計122名は、すべてが活動的な隊指導者、団委員、または育成会役員として活躍中である。また、富士スカウトの榮譽に浴した者は6名を数えている。このことは、海外旅行に参加した者たちが、旅行で得たスカウト意識と国際交流体験と、団家族のバックアップ体制を得て、指導者への道を確実に理解し歩んでいることを明確に語っている。

このような、団としての国際理解、交流、貢献の環境と風土の中で、21世紀の世界へ大きく飛翔する、より多くのスカウトが育つことを私は確信している。

スロバキアで街角交流

8月下旬に1週間ほどスロバキアを旅行しました。1993年にチェコ・スロバキアがそれぞれに独立した国で、北はポーランド、東はウクライナ、南はハンガリー、西はチェコとオーストリアに囲まれた、日本の四国と中国地方をあわせてくらいの広さです。馴染みが薄いのか、旅行中日本人と巡り会うことはありませんでした。

東部にあるコシツェという町のメインストリートを歩いていたときのことで。何やら賑やかな集団がいました。これが何とボーイスカウト。つい嬉しくなって、「ボーイスカウト?」と声をかけたところ、全員に取り囲まれて、「我々はハンガリーのスカウトだ。きみもスカウトか」と聞かれました(私はハンガリー語がわかるわけはありませんが、そんな感じでした)。

ボーイスカウト日本連盟の職員だと応えると、「日本のスカウターと会えるとは貴重な体験だ。記念に写真を撮ろう!」(というように聞こえました)と、思いがけずとんとん拍子に交流が進んだ結果がこの写真です。

日本語どころか英語も通じにくいスロバキアの街角で、ハンガリー語との交流。陸地につながっているヨーロッパでは、外国語も方言の一つなのかもしれません。

ボーイスカウトには世界中にたくさんの仲間がいることは皆さんもご存じのとおりです。互いにスカウトだからこそ、すぐに心が通じ合うのです。しかし、まず最初に声をかけなければ交流は始まりません。外国だけでなく、日本でも制服姿を見かけたら、まず「ボーイスカウト?」やってみませんか。 高野英孝(日本連盟職員)



単位団での国際交流の実際

京都・京都第7団団委員（国際担当） 中原 勇喜男

個の国際交流

発団10周年記念年であった1959年に、当時高校2年のスカウトが第10回世界ジャンボリーに参加したのを初めとし、個としての国際交流を果たした(表1)。

個から群の国際交流へ

発団25周年の記念年を迎える事業として、団としての国際交流のあり方を考え、単発行事に終わることなく恒久的な国際交流を図ることを旨として、1972年に海外実行委員会を設立し作業に入った。相手国をアメリカ合衆国とし、検討を重ねた。京都第7団の育成母体が金光教烏丸教会であることから、アメリカ・サンフランシスコの金光教桑港教会と交流を深め、桑港教会のボーイスカウトが日本ジャンボリー参加時には、団で受け入れ態勢をとった。その翌年には当方がアメリカを訪れて約1週間の野営訓練に参加し、相互交流を軌道に乗せることができた。1975年8月に始まり、以後4年ごとに渡航し、国際理解、国際交流プログラムを展開し、各自積極的な活動を推進している(表2)。第1回の渡航には様々な労苦があり、生みの苦しみがあったという記録が私たちの団に残っている。

「1972年に海外実行委員会が発足し、1975年に第1回実施に至る準備は未知のことばかり。当時は旅行社も実績がなく、東京のアメリカ政府観光局や日本郵船の事務所で資料収集を行ったが、それでも目的の資料を入手することは困難だった。アメリカ地図を広げて、コースと距離、どれだけの地域を周回できるか検討し、ユタ・ネバダ・コロラド・アリゾナ等は、バスの1日の走行距離から宿泊地を決め、アメリカの現地業者に依頼し、ホテル等の予約を入れながらのバスツアーだった。1ドル=360円時代で、経費節約で添乗員なしの旅を進めたが、各地のスカウターと話したり、当時のアメリカの国情を垣間見たり、見聞を広げられたことは何物にも変えられない体験であった——第1回団長・山本昇夫氏の文章より要約」

他にも、単位隊の国際交流の一環として、ローバー隊が海外遠征を行い、国際交流を深めている(表3)。

海外旅行の理念と実際

海外旅行の理念は、スカウトたちにスカウト技能を活かして、海外におけるキャンプやホームステイを経験させ、現地スカウトとの国際交流を通じて、世界のスカウトの一員である自覚と誇りを持たせることにある。

| 参加年 | 名称 | 参加者 | 参加年 | 名称 | 参加者 |
|-------|---------------|-----------|-------|--------------------|-----------|
| 1959年 | 第10回世界ジャンボリー | 篠田 常生(高2) | 1970年 | 第9回オーストラリアジャンボリー | 篠田 泰夫(高2) |
| 1964年 | 第6回アメリカジャンボリー | 柴田 道輝(高2) | 1975年 | 第9回国際キャンプスタッフ | 桂 茂樹(大4) |
| 1967年 | 第12回世界ジャンボリー | 山科 隆雄(高3) | 1986年 | 第10回オーストラリアローバームート | 山崎伊佐緒(大4) |
| 1969年 | 第7回アメリカジャンボリー | 篠田 光政(高3) | | | |

| 参加年 | 期間 | 団長 | 隊長 | 人数 | 参加年 | 期間 | 団長 | 隊長 | 人数 |
|-------|-----------|-------|-------|----|-------|-----------|-------|-------|----|
| 1975年 | 8/2~8/17 | 山本 昇夫 | 篠田 常生 | 13 | 1991年 | 7/30~8/13 | 川勝 波夫 | 橋本 和生 | 13 |
| 1979年 | 8/1~8/15 | 鶴谷 修三 | 吉宗 守男 | 27 | 1995年 | 7/22~8/5 | 中原勇喜男 | 山崎 博 | 16 |
| 1983年 | 7/29~8/8 | 滝川 定淑 | 森川 勇一 | 18 | 1999年 | 7/25~8/8 | 中原勇喜男 | 高橋 良紀 | 23 |
| 1987年 | 7/28~8/10 | 鶴谷 修三 | 山崎伊佐緒 | 28 | | | | | |

| 参加年 | 期間 | 交流国 | 人数 |
|-------|-----------|----------------------|----|
| 1988年 | 8/1~8/10 | 韓国一周 プサン〜ソウル | 5 |
| 1989年 | 7/10~8/10 | 米国 シアトル、ニューオリンズ、フロリダ | 2 |

上から表1 個の国際交流

表2 単位団としての海外交流

表3 ローバー隊の国際交流

21世紀へ向かってレッツゴー

活動



取材宣言

「これは使える」といったおもしろいアイデア。スカウティングに役に立ちそうな情報。ぜひ見てもらいたい我が団の独自の活動等々、編集部にお知らせください。全国どこへでも時間と予算の許す限り編集スタッフが取材に伺います。



創立35周年の記念行事の一環として、8月に「種子島・屋久島」の旅行を実施しました。参加したスカウトたちは、大自然の偉大さに感動し、大変有意義な旅行ができました。参加スカウトの感想文の一部を紹介します。

愛媛・松山第25団副団委員長 胡田 隈

カブ隊 松本翔太

ぼくは、八月三日の夜から、ボイススカウトで種子島と屋久島に行きました。種子島では、宇宙センターを見学しました。ゲームをしたり、ロケットを見たり、おみやげを買ったりしました。

屋久島は山ばかりでしたが、世界自然遺産にもなっている島です。樹齢三千年の紀元杉や、大きな杉の切り株も見学しました。海に囲まれた島だったので、どこに行ってもきれいな海を見ることができました。夕方の海もオレンジ色に光って、とてもきれいでした。友だちと遊んだことや、島でいろんなものを見たり学んだりして、とても楽しかったです。

◆ ◆ ◆

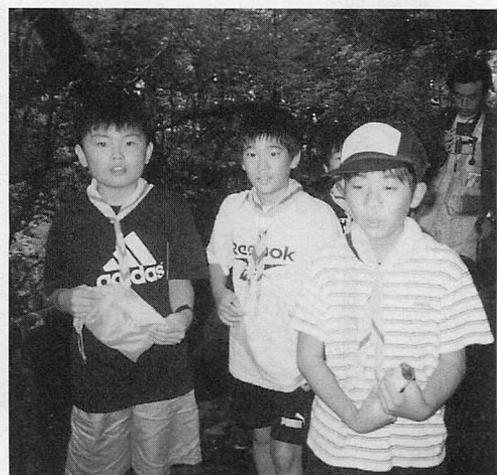
カブ隊 立花慎一

ぼくは、ボイススカウトで種子島・屋久島を旅行しました。まずフェリーで九州に渡り、朝早く太宰府に行きました。お守りを買った後、高速艇のトッピーに乗って種子島に行き、博物館を見学しました。博物

館には、昔の人が使っていた「火縄銃」や「大砲」が展示してありました。ぼくは、火縄銃を持たせてもらって写真を撮りました。火縄銃はとても重くて、引き金を引いたら弾が飛び出しそうな気がしました。

次に、宇宙センターで、おみやげを買ったり、宇宙に関係するクイズをボタンで押して答えたりしてすごく勉強になりました。

次の日またトッピーに乗って、今度は屋久島に行きました。ヤクスギランドには、いろいろな種類の大きな木がたくさんありました。緑でいっぱいだったので、涼しかったです。この旅行を振り返って、少し疲れただけ、本当にすごく楽しかったです。また行きたいなと思いました。





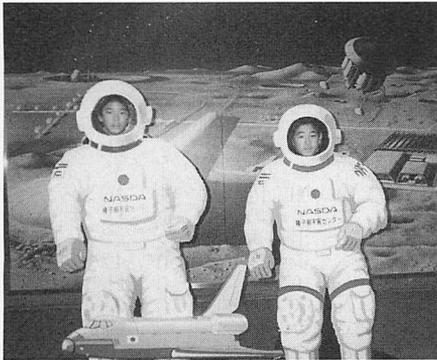
愛媛・松山第25団
創立35周年特別行事
「種子島・屋久島への探険旅行」

夢とロマンを求めて

募集

新聞に載ったぞ!!

あなたの団の活動が記事として掲載された新聞の切り抜きや、何かの式典の報道写真で後ろに制服姿のスカウトたちが写っている等、おもしろいエピソードと一緒に送ってください。



ボーイ隊 三好陽子
屋久島の一番の思い出は、あのもっと大きい紀元杉です。とても幹が太くてびっくりしました。友だちと撮った写真も一回では上から下まで入りませんでした。そのとき、縄文杉も見てみたいなと思いました。

種子島の思い出は、やはり鉄砲博物館でした。実物と、想像していた物との違いはそうはげしくなかったけれど、あまりにもたくさん種類があるのでびっくりしました。鉄砲博物館にはその他、昔の道具等が置いてありました。今度は家族で行ってみたいと思いました。

ボーイ隊 内見曜子
私は種子島・屋久島に行つて、楽しかったところを紹介しします。それは種子島の千座の岩屋です。私は海に着いたとき、うっとりとしていました。だから、バスから降りたとき、ボーッとしていました。歩き始めてすぐ、道に水が湧き出ていました。私は何となくうれしくなって、水が湧き出ているところに指をつっこみました。水は冷たくて気持ちよかったです。砂浜をのんびり歩いていくと、千座の岩屋がありました。水が満ちてきていました。

波打ち際に立ったら、波がザブーンと急に強くうち寄せてきたので、足が濡れてしまいました。そして波から逃げていたら、頭を岩で打ってしまいました。中はとても広かったです。また行きたいです。

◆ ◆ ◆
ボーイ隊 市川裕太
ぼくはボーイスカウトで種子島・屋久島に、八月三日から三泊四日の旅行に行きました。出発前には、ど

んなところか想像もつきませんでした。一番心に残った場所は、屋久杉ランドです。原生林のようで、樹齢三〇〇年もの紀元杉もありました。すごく巨大なので、びっくりしました。三〇分のコースを歩いていくと、途中で鹿がいました。間近で鹿を見ることができたので、すごく嬉しかったです。それからバスに乗って道を下りていくと、道端にサルが七、八匹いました。バスが止まってくれたので、ゆつくりサルを見ました。屋久島を代表するヤクザル、ヤクジカを見ることができて、よかったです。

ぼくは昼に食べたトビウオの唐揚げがおいしかったです。ぼくは初めてだったので残そうと思ったけど、みんながおいしそうに食べているので一口食べてみたらすごくおいしかったです。全部食べました。

トッピーという時速四五ノット、時速八〇キロの船に乗ったのも楽しかったです。トッピーは、トビウオのように走るところから名前をとったと聞きました。

夏休みの思い出にいい旅行ができてよかったです。みんなとも仲良くできて、よかったです。



子ども未来博2000

活動



募集

H I K E の俳句

ハイキングに出かけたときの楽しい出来事や美しい風景、スカウトたちの頑張った姿を、五・七・五の俳句で表現してみませんか？ 迷句、珍句も多数届いています。あなたもぜひ一句いかがですか？

岐阜・組織拡張委員会広報担当 清水栄一

「ミレニアム2000ウエルカム21ぎふ」シンボルイベントの一環として、七月二十九日～八月二十七日の約一か月間、「子ども未来博2000」が岐阜県で開催されました。

当県連盟も、県内の青少年団体とともに積極的に参加。ボーイスカウト活動の一端を紹介して、一人でも多くの子どもたちに、スカウトの仲間になってもらえるように、県連盟、地区、団の指導者とスカウトたちが奮戦しました。

会場内におけるボーイスカウトの活動コーナーでは、炎天下、連日汗だくだくの奉仕となりました。

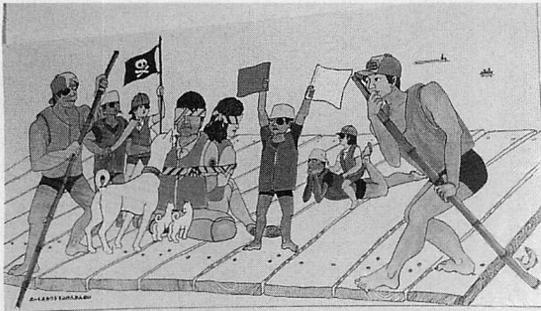
屋内のスカウト活動展示（パネル



折り紙コーナーでは、紙舟や鶴、亀等、紐結びのコーナーでは、リボン、ペンダント、ブローチ等、クリップで留めて身に付けられるものを作りました。自分の手で折った舟を人工川に浮かべて競争し、夢中になった子どもたちが水浸しになるなど、思わぬスキンシップコーナーになりました。

等）コーナーでは、指導者が常時待機し、リーフレットを渡してボーイスカウト活動の説明をしました。また、ビーバー、カブ年代の児童を対象に、「折り紙」「紐結び」等の作業コーナーと、くもの巣等の遊びのコーナーを設けました。

プがほとんどで、スカウト活動の案内リーフレット、県内の各地区、団の連絡先等のリーフレットを、会話を交わしながら手渡すことができました。ボーイスカウト活動のほんの一部分の紹介でしたが、多くの地域の児童、保護者の方々に、直接アクセスでき、PRとしてもよい活動になりました。



ユーモラスなイラストでボーイスカウトの活動を紹介





おたよりの

宛先

〒181-0015

東京都三鷹市大沢4-11-10 財団法人ボーイスカウト日本連盟 組織部広報課
※編集の都合で原稿に手を加えさせていただく場合があります ※原稿・写真・イラストは返却いたしません

スカウトと遊ぼう会

一般児童を招いてスカウトと野外活動の楽しさを体験してもらう催し。

活動

岩手・滝沢第2団団委員長 浅沼俊光



午前八時、準備開始。瞬く間に開始の一〇時が近づく。前日準備ができなかったのは痛かった。開会式では鬼越峠に住む仙人が登場し、仙人修業を今から行うことを宣言した。仙人修業は以下のとおり。子どもたちの反応は様々で、今後の参考にしたい。

①くもの巣地獄

立木の根本等を利用してくもの巣を作り、あちこちにつけた鈴を鳴らさないようにくぐり抜ける。

②暗夜行路

立木に渡したロープを、目隠しをして伝って通る。最後に鈴を下げ、鳴ったら終わりとする。

③ストラックアウト

④宝ものゲット

ゴムひもをみんなで引いて伸ばして、宝ものの缶にはさんで台に運ぶ。

⑤木登り体験

⑥ターザンロープ

木の枝にロープを下げてだけ。

子どもたちの様子・反応

①くもの巣地獄

一度やってみれば後はいいという感じで、子どもは集まらなかった。しかし、終わった後の感想では、おもしろかったとのこと。

②暗夜行路

同じく、二〜三度やる子は少なかった。小さい子には補助が必要。一人当たりの時間がかかるため、列は割ととぎれない。

③ストラックアウト

ボールを当てるだけというお馴染みのものであるが、人気は高く、最後まで子どもがあふれていた。

④宝ものゲット

大人が説明して一緒にやってみるとおもしろがるが、進んでやらない。

⑤木登り体験

他の遊びは平面上で行うものだが、立体なため、安全に気を使った。希望者は多く、列もできる。二度、三度と挑戦する子どもが多かった。子どもは危険にスリルを感じ、楽しんだようだ。合格線を越える子どもも多い。ム

⑥ターザンロープ

単純だがすぐ飛びつけるので、いつも子どもがいた。木の幹にぶつかりそうになる、すべりそうになる、そんなスリルが楽しいそうだ。

◆ ◆ ◆

一一時四〇分頃、やきいもを食べる。おいしいと好評。

一二時頃、閉会式を行い、解散した。解散後も、遅れてきた子を含め、数名遊んでいた。

■全体をとおしての感想

用具や装置を使ったものよりも、ロープを下げてだけ、木に登るだけといった単純なものが(もちろん、安全のために用具を使ったが)、意外と子どもには受けるものであると感じた。このような会には特に安全第一を考える必要があるが、子どもは危険な要素があると喜び、楽しいものであることを改めて感じた。現代社会では、危険だからと子どもにも冒険をさせないが、その弊害を感じる。

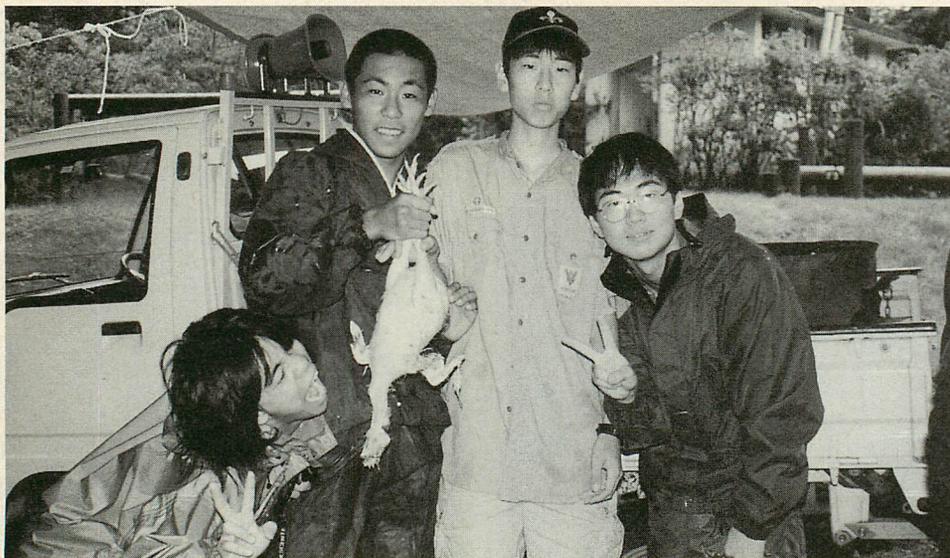
反省

5NV活動基地——ご迷惑おかけしました。

アポなし取材

④延岡・北方

突然の来訪で被害を受けた基地関係者からの
おたより募集します



今回も記録ビデオ撮影班編です。

延岡・北方へ向かった撮影隊を待つていたのは、前方視界がゼロになるほどの雨と、事故渋滞でした。やっと到着したら、基地の中はカラッポ。

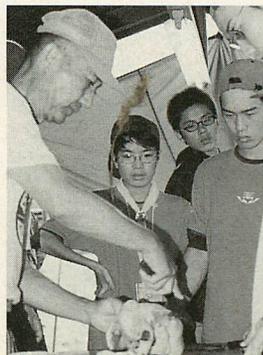
「霧が晴れたので、今日はエトランドで芝スキーをしていますよ」とのこと。エトランドは山の上にあるため天気が変わりやすく、もしかた霧が出たら中止になることもあると聞かされ、あわてて出発した撮影班。ギリギリセーフ。無事、スカウトたちの勇姿を撮影することができました。

もう一つのプログラム、鹿川キャンプ場での地鶏さばきと二〇〇メートルの流しソーメンを取材するために、撮影班はまた車を走らせます。今度は霧はなかったものの、山を幾つも越え、落石が転がっている狭い道路を抜け、さらに道を覆うようにせり出した大きな大きな岩壁の下を

通り、二時間かけてやっと到着。ロボロの我々をやさしく迎えてくださった指導者の方の顔が、涙でじんで見えました。

流しソーメンをやるのは次の日というところで、各々がそれぞれ役割を分担して水路を作成し、いよいよ本日メインである地鶏さばき。撮影班が機材を抱えて現場に行くと、二人のスカウトが口を押さえてしゃがんでいます。顔が真っ青でつらそうです。初めて見る光景に、体がついていかなかったようでした。

まずは指導者の方がしめ方を説明。スカウトたちの目は、指導者の顔と鶏を行ったり来たり。頸動脈を切り血を抜いたところで、スカウトたちから「うわっ」と声があがりました。下処理をして実際にさばきはじめる、スカウトたちは一言も話さず、ただじっと、さっきまで生きていた



ものをさばく様に見入っていました。ファインダー越しに見えるスカウトの顔には、「人間の残酷さ」「命の尊さ」「怖さ」「血の赤さ」「料理に対する期待」：様々な表情が。

すっかりさばき終え、スカウトに笑顔が戻った頃、我々は基地を後にしました。時間の関係でさばいた鶏を料理するところまでは撮影できませんでした。自分たちでさばいた鶏を、スカウトたちはどんな気持ちで食べたのでしょうか。感想をお待ちしています。

衝撃度 86%



これが撮影班がビクビクしながら下を通った大きな大きな岩壁だ!!

▶さばき終えて笑顔が戻ったスカウトたち。けんちゃん汁を作りました。

○ ビーバースフォーラム ○

みのりのあき 三重・名張第2団

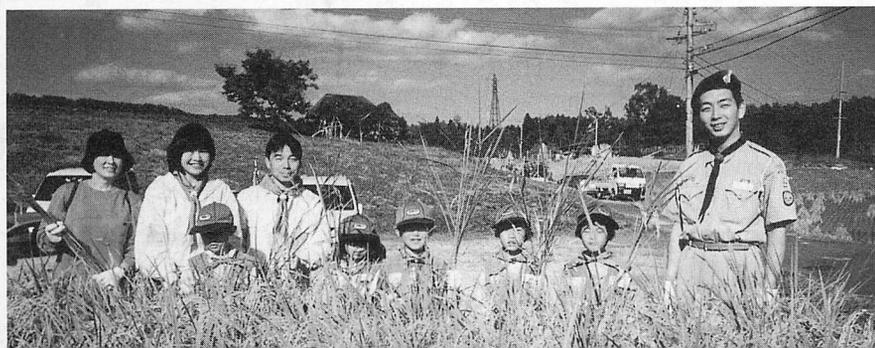
ぼくたちの稲刈り体験



三重・名張第2団ビーバー隊では、10月14日、リーダー9名、スカウト20名、保護者16名の計45名で稲刈りをしました。今年5月14日にスカウトたちが田植えた「もち米」が、名張市農業普及指導員のご指導のお陰で豊かに実り、近くの山に棲む鹿に少々荒らされたりしたものの、77坪(254.1m²)で1俵半(90キロ)の収穫になるようです。「田植えた3本の苗が1株30本になり、1本には100粒のお米がついている」と指導員さんから聞き、ビーバーたちは驚きと歓喜の声をあげていました。田んぼの中で鹿の2本爪の足跡を発見したり、カエルに驚いたり、気づかずにイモリを2つに切ってしまったり…。初めての体験に皆大騒ぎ。これを12月のクリスマス会(もちつき会)で使い、残りを育成会に市価の半額程度で買っていただき隊の資金とし、2月団B-P祭と同時開催の育成会行事(もちつき大会)で、団の皆様にご食べていただく予定です。

スカウトたちも保護者の皆さんもほとんど初めての経験であり、お百姓さんのご苦労が体験できました。今夏の発団20周年記念団合同野舎営時、ビーバーのスカウトダウン時に、お米の一生とお百姓さんのご苦労を、ビーバーたちが生まれ落ちてから今日を迎えるまでのご両親のご苦労になぞらえて話しましたが、さらに「感謝のこころ」が芽生えたことと思います。

少々ケガとカユサを味わいましたが、これも良い体験になったと思います。



Beaver's Forum

ビーバー隊指導者・保護者のための

情報交換ページ



男子 16,049名 女子 3,470名
H.12.10.31 現在 ビーバースカウト数

19,519名

楽しい
ビーバーの
活動のおたより
待ってます

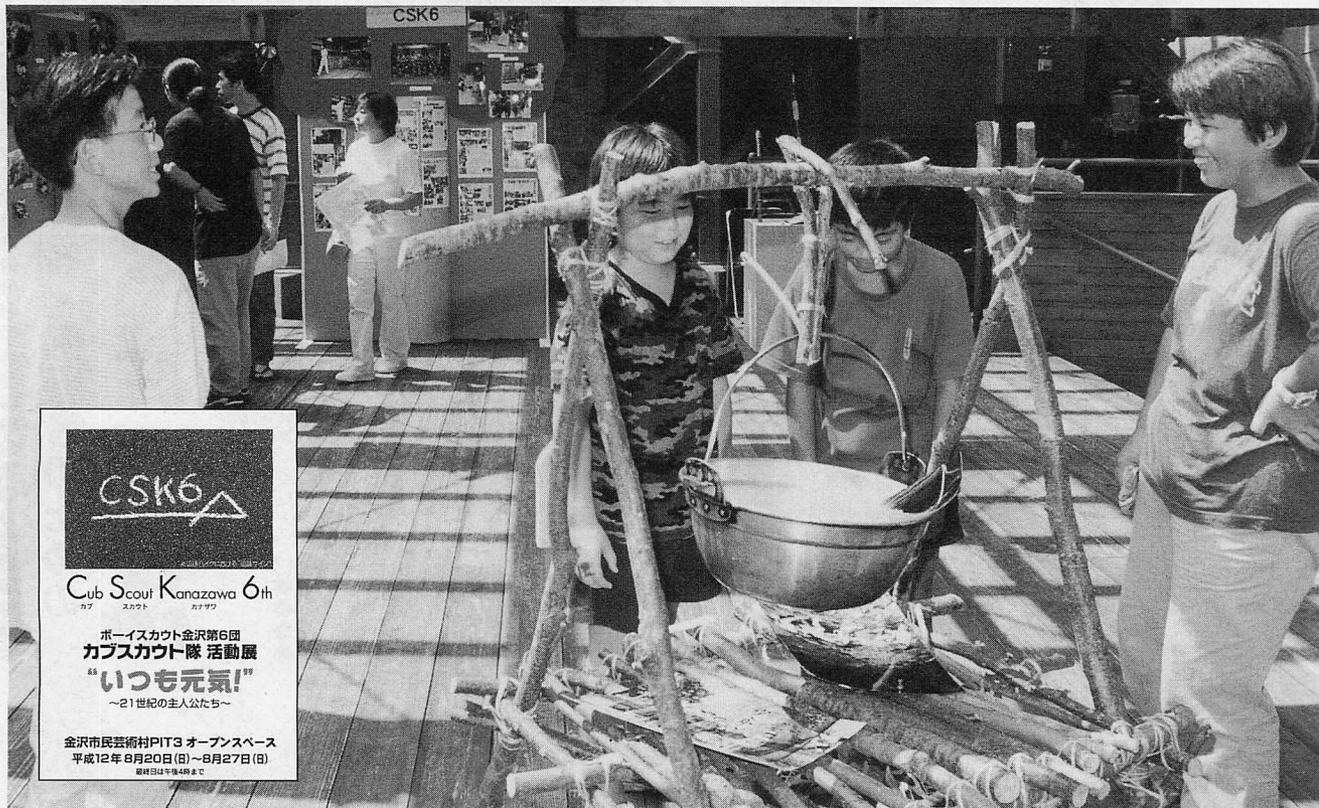


CUB

SCOUT PROGRAM

金沢

カブスカウト・プログラム



CSK6
 Cub Scout Kanazawa 6th
 ボーイスカウト金沢第6団
カブスカウト隊 活動展
“いつも元気!”
 ~21世紀の主人公たち~
 金沢市民芸術村PIT3 オープンスペース
 平成12年8月20日(日)~8月27日(日)
 観覧は午後4時まで

カブスカウト隊活動展

いつも元気 ~21世紀の主人公たち~

石川・金沢第6団カブ隊隊長 高屋 論

2000.8.20(日)~27(日) 金沢市民芸術村

とつても
 楽しそうだ!



今回の活動展は、普段自隊または団以外ではなかなか見ってもらえる機会が少ないスカウトたちの活動や作品を、「広く一般の方はじめ、他団の方々に見ってもらいたい、そんなチャンスを与えてあげたい」「スカウトたちが頑張っているのを少しでも認めてやってほしい」それが次のステップ、自信へとつながれば...

そんな想いの中、二一世紀の主人公たちが元気に頑張っている姿を写真パネルにしたものを展示し、作品を展示する活動展の開催を企画しました。最近よく耳にする青少年の犯罪や学級崩壊、週完全五日制等のキーワードに関連してボーイスカウト運動への注目も高まってきていますので、そんな意味も含め、ボーイスカウト運動のPRを図るといった趣旨のもと、展開していきました。

実は本当のところ、雑談から盛り上がり、「それはいいことだ」と軽い返事をしたのがはじまりでした。当団の指導者は、イベント屋、舞台装

難民の子どもたちに絵を送りましょう！

東京・目黒スカウトフェスティバルでアートパックブースを開設

ローバース会議 積川淳一／山崎秀則

ローバー通信 誌上 79
ローバームート
ROVERMOOT on PAGES



今月より、「難民の子どもたちに絵を送ろう！」キャンペーンが始まりました。キャンペーンで私たちが協力する団体「国境なきアーティストたち」の本部がある東京では、いろいろな方から協力の声をいただきました。そこで、このキャンペーン開始に先立ち、11月3日の文化の日に、東京連盟目黒地区のご協力を得て、地区の「目黒スカウトフェスティバル2000」において、「アートパックブース」（キャンペーンの意義をスカウトに説明しながら、難民の子どもたちに送る絵を皆で描く指導をする）を設けました。

当日は曇り空で、小雨が降ったりもしましたが、「アートパックブース」には多くの子どもたちが参加してくれました。ユーゴスラビアのコソボの子どもたちが描いた絵を見ながら「国境なきアーティストたち」代表のエクトル・シエラさんから説明を聞いたり、難民の子どもたちへ送る絵を描いたりしました。時間が空いたときには折り紙もできるようにしました。子どもたちは事前に難民の子どもたちについて勉強していたようで、絵を描いているときに「明るい色を使った方がいいんだよね」とか、「戦争で悲しんでいる子どもたちに送る

「目黒スカウトフェスティバル2000」では、「地球人集まれ」のテーマのもと、環境と国際貢献を念頭に置いた活動や出展が行われました。その中で、国際貢献につながる活動として、ローバース会議が提唱した「アートパック」（難民の子どもたちに送る、日本の子どもたちが描いた絵とクレヨンセットにしたパック）作りを取り上げていただきました。

「目黒スカウトフェスティバル2000」では、「地球人集まれ」のテーマのもと、環境と国際貢献を念頭に置いた活動や出展が行われました。その中で、国際貢献につながる活動として、ローバース会議が提唱した「アートパック」（難民の子どもたちに送る、日本の子どもたちが描いた絵とクレヨンセットにしたパック）作りを取り上げていただきました。

キャンペーン「指導者用資料」
（「国境なきアーティストたち」が出向けない地域での活動用）は、今回のアートパックブースで得た反省点も活かして作成しています。「指導者用資料」は日本連盟のホームページにも掲載します。ぜひ、皆さんの活動に取り入れてくださいますよう、よろしくお願ひします。

**ホームページに
アクセスを！**

ROVERMOOT on PAGES

誌上ローバームート

全国のローバー諸君、後輩たちの模範となるような立派な活動をしてください。大人としての自覚と責任を持って発言してほしい。スカウティングに對する諸君らの真摯な姿勢に期待する。

募 集

★ R ★ O ★ V ★ E ★ R ★ 活躍するローバー ★ R ★ O ★ V ★ E ★ R ★

有言実行!!
全国のローバー諸君！二一世紀の世界を担うきみたちだからこそ、ガッソーンと一発、社会にインパクトを与える活動を期待する。



全国のローバースカウト諸君、
私たちが中心となって
このキャンペーンを
実施していきましよう!!

「難民の子どもたちに絵を送るキャンペーン」に参加しよう

- 主 唱 日本連盟ローバス会議
- 目 的 「平和の文化国際年」の趣旨に沿った、日本連盟の国際年への協力、参加活動の一環として位置づけ、国際理解教育、国際協力活動としての効果をあげる。
- 期 間 平成12年12月～平成13年3月
- 内 容 国際支援NGO「国境なきアーティストたち」の活動に協力し、年少のスカウト(主にカブスカウト)の描いた絵とクレヨン(アートパック)を、世界の紛争地域の難民の子どもたちに送る。(送付するクレヨンは別途調達を予定)
- 実施方法
 - ①用意するもの 薄手の画用紙かコピー用紙(A3判くらい)
絵を描くクレヨン(柔らかめのもの、各自)
指導者用資料
 - ②集会等でアートパックのための時間を適宜とり、指導者がこの活動の趣旨、意義について説明を加えた後、スカウトが絵を描く。
 - ③絵の題材は、友だち、家族、自然、町等の身近なものとする。
 - ④指導者はスカウトの絵を集め、日本連盟プログラム課に送付する。

※「指導者用資料」は、日本連盟プログラム課に送付を要請するか、インターネットの日本連盟ホームページからダウンロードする。

※希望により、コンボの子どもたちが描いた絵のカラーコピーパネル(80×80センチ 7枚、小型説明パネル5枚)を貸し出す(1セットのみ)。送料：往路日本連盟負担、復路利用者負担。

※集めた絵は、平成13年3月以降ローバス会議担当者がパックし、「国境なきアーティストたち」に伝達するか、共同でパックを現地に持参する。

※東京近郊の活動には、「国境なきアーティストたち」が直接外向いて指導できる場合があるので、日本連盟プログラム課と調整してください。

〒181-0015

東京都三鷹市大沢4-11-10

(財)ボーイスカウト日本連盟
プログラム課

TEL 0422-31-5168

E-mail program@scout.or.jp

ホームページ

<http://www.scout.or.jp>

第20回世界スカウトジャンボリー(タイ)情報

二〇〇三年タイの
20WJで会いましょう



【期間】平成一四年二月二八日～平成一五年一月八日
 【場所】タイ王国 チョンブリ県 サタヒップ
 首都バンコクの南東一八〇キロのタイ湾岸にある二二〇〇ヘクタールの平地、丘陵および白砂海岸からなる野営地。
 【プログラム】サブキャンピングシステムにより運営され、全体行事・自由参加行事に加えて次のプログラムが準備される。
 地球開発村 (G D V) 健康・環

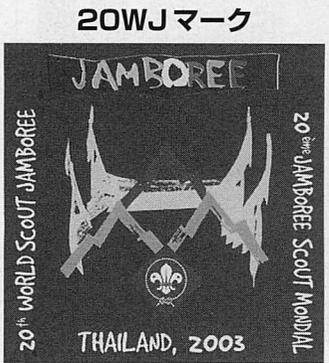


境・人権・平和・国際理解、科学と技術の都市、文化のクロスロード、我々の文化遺産、対抗競技、地域社会奉仕の日 等。
 【参加者】WOSM加盟の一五一か国 他 計二〇、〇〇〇～三〇、〇〇〇人
 【派遣団】派遣団は、参加隊・国際サービスタッフ・派遣団本部からなる。参加隊の標準編成は九人の班×4こ班(三八人)、指導者四人の、計四〇人。
 ・スカウト 平成一四年二月二八日(開会式当日) 現在、一四～一七歳の男女スカウト。
 ・参加隊指導者 成人。
 ・国際サービスタッフ 一八～二八歳を原則とする。

・派遣団本部員の数 参加スカウト数に応じて上限が定められている(例/スカウト一、〇〇〇人で本部員三〇人、最大でスカウト二、三〇〇人以上で五〇人)。
 【交通】バンコクからバス、鉄道、飛行機を利用。ドンムアン・バンコク国際空港から高速道路で二二時間半、約一八〇キロの距離。タイスカウト連盟の野営場があるスリラチャを経て、観光地として名高いパタヤ海岸の先三〇分のところにある。会期中はドンムアンから、プルタルアン駅(会場から一五キロ)まで特別列車が運行される予定。また、会場から一五キロのところにウタパオ空港があり、航空機で会場に向かうこともできる。

全ロシアスカウト機構正加盟へ
 二〇〇〇年九月一日付けで、世界スカウト機構への正加盟が承認された。このことにより、正加盟は一五か国となった。
 全ロシアスカウト機構は、一九九六年にモスクワで創立された。二〇〇〇年五月二九日現在、約一四、〇〇〇人の少年と少女が登録している。
 ユーラシア地域には、アルメニア、アゼルバイジャン、ベラルーシ、グルジア、モルドバ、タジキスタンが加盟し、活動している。

20WJのマークは、中央に、世界スカウトエンブレムと、タイの典型的な屋根の形を表しています。この屋根の形は、すべての国と地域から大勢のスカウト仲間が集う、この大きな大会のホスト国であるタイをも表しています。Aの形の切り妻屋根は、伝統、文化、そして過去の時代から脈々と続く豊かな文化的遺産を象徴しています。そしてまた、アジア太平洋地域からの参加と支持も象徴しているのです。12日間の世界ジャンボリーの中で、私たちは友情、理解、平和の中心となるこのAの形の屋根の下で生活するのです。





セレモニーの体験レポート
本当に役立つプログラムの提案
すばらしい指導者の話…etc

大募集

採用されれば……
記念品贈呈!

■5N Vに参加したぞ

久住高原で燃焼した青春。ものすごく感動したこと。ひどくがっかりしたこと、予定どおりに事が進まなくて歯ぎしりした思い出等、5N Vで体験した様々なエピソードをお待ちします。大会運営に関する提案等も大歓迎です。

■アダルトリソシスって?

スカウトの指導者はこうあるべきだ。高い意識レベルを保ち、技能と知識に優れ、そしてすばらしい人間性。スカウトたちを指導するのに本当に必要なものは何か? 「スカウトが主役」の運動にとって一番大切なものは何か? あなたの熱い意見を待っています。指導者養成やトレーニングの制度に関する意見も歓迎。

■環境と野外活動について

野外活動なくしてスカウトは語れない。だけど、野外活動は環境破壊につながるのか? 地球に優しいキャンプって? C. W. ニコルさんは「焚き火はやるべきだ」っていつているけれど、あなたの意見は? : : etc.

■募金活動について

スカウトは様々な募金活動に協力

しています。街頭に立って募金を呼びかけるだけでなく、意味や目的をもっと深く理解するためには、どんな工夫が必要でしょうか?

■組織拡充について

さらに減少を続けるスカウト人口に歯止めを! あなたの団が行っている入団促進のための工夫。中途退団者をなくすための涙ぐましい努力。団員を確保し、組織を維持していくための、他人には言えないような苦勞話等をお聞かせください。

■オレにも言わせる

「魅力的なプログラム作りのために、こんなことをしているぞ!」「こういう情報がほしい!」「私が考えるダメ指導者とはこういう人だ!」「安全管理のための提言」「需品はこれいいのか!」日頃から抱えている疑問や不満をぶつけてください。

■その他・何でもWELCOME!!

スカウト活動に関することなら何でもOK! 気取らずかまえず、素直なあなたの言葉でおたよりをください。スカウトたちとの活動の中で見つけた小さな幸せ、ちよつといい話を聞かせてください。(宛先は四頁)

日本連盟からの

おしらせ

■日本連盟主催 第二回チャリティーゴルフ大会

昨年度に引き続き、日本連盟主催の資金造成のためのチャリティーゴルフ大会が、一〇月二四日千葉県・山田ゴルフ倶楽部において開催されました。大会は吉田宏実行委員長はじめ、上島真一郎常務理事、池内貞夫、吉田謙、園田國治各実行委員により準備が進められ、千葉県連盟をはじめ関東ブロックの各県連盟、日本連盟役員、取引先関係者の皆様のご協力により、七二名の参加者を得て盛況に開催されました。

大会当日は絶好なゴルフ日和となり、佐波理事長から開会の挨拶の後、千葉、東京、神奈川、山梨、茨城各県



連盟の役員・関係者の皆様、日本連盟から佐波理事長、橋本副理事長、吉田宏実行委員長他、取引先関係者等、本大会にご賛同いただいた方々が次々にスタートし、熱戦が繰り広げられました。競技終了後懇親パーティーが催されました。優勝等入賞者が順次表彰され、(株)東芝、ソニー(株)、(株)アシックス他、協賛いただいた企業から寄贈された賞品が贈られました。このチャリティーゴルフ大会により七〇万円以上の収益金が得られ、今後の日本連盟の活動に有効に活用されることとなります。大会の開催およびチャリティーにご協力いただきました各県連盟、関係取引先の皆様に厚くお礼申し上げます。

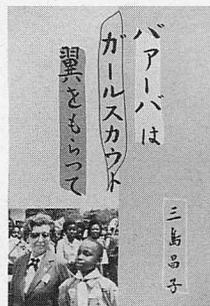


書籍紹介

「バアーバはガールスカウト 翼をもらって」

三島昌子 著 / 自費出版 / A5判変型 / 280頁 / 2,200円(税込・送料別)

元ガールスカウト日本連盟会長・現ボーイスカウト日本連盟相談役の三島昌子氏が、このたび本を出版されました。オールドスカウトの方々はよくご存じのとおり、著者は、戦後ボーイスカウト日本連盟の総長を長年務められた三島通陽氏の長女です。社団法人ガールスカウト日本連盟は1920年創立、このほど80周年を迎えました。ボーイスカウトもガールスカウトもともに、英国においてベーデン・パウエルが創設した世界的な社会教育運動で、著者は『日々スカウティングに明け暮れた歳月は、まぎれもない生涯教育の場と申せましょう』と語っています。スカウト運動に関係する者にとって、ぜひ一読に値する良書としてご紹介します。スカウト運動の原点、楽しさ、冒険、そして歴史が存分に語られています。購読ご希望の方は、下記申込書に必要事項を記入の上、FAXでお申し込みください。



申込書

FAX送信先 永橋牧子 FAX 03-3715-2037

| | | | |
|------|-------|------|---------|
| 申込期日 | 年 月 日 | 申込冊数 | 冊 |
| 申込者 | 氏 名 | 住 所 | 電 話 番 号 |
| 送り先 | | | |

SCOUTING BACK-NUMBER 1999.12-2000.11

ボーイスカウト日本連盟機関誌

全隊長購読キャンペーン

実施中!!



1999年12月号
熱血指導者大集結

ボーイスカウトを溺愛し、人生を捧げる指導者が全国から集まり、激しく熱く議論を展開!



2000年1月号
ミレニアム対談

渡邊総長が、ベンチャー、ローバー世代と対談。「世界」を体験した若者たちが堂々発言!



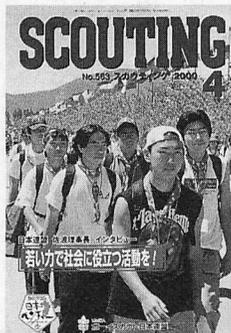
2000年2月号
時代はノン・フォーマル

牛山アダルトリゾーシス委員長自らが熱弁を…。運動の未来と進むべき方向は見えたか!?



2000年3月号
機能する組織の条件

現状団運営に「喝!」を入れるために、多くの資料からシビアな目で「組織」を分析・研究



2000年4月号
佐波理事長インタビュー

若い力で社会に役立つ活動を! 上島常務理事が聞き手となり、現代の青少年教育を斬る!!



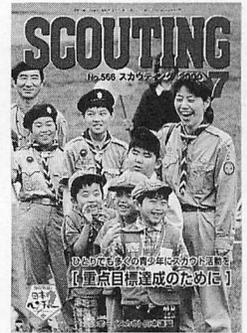
2000年5月号
平成12年度事業計画

「ひとりでも多くの青少年にスカウト活動を」全国会議を前に事業計画を詳しく解説する。



2000年6月号
速報 年次全国会議

5.20秋田で何が話し合われ、何が決まったか。今後、我々は何にどう取り組みればよいのか。



2000年7月号
重点目標達成のために

今年度の重点目標について、常設委員会の委員長が解説。目標達成に向けての指針を示した。



2000年8月号
あらためて語ろう キャンプのすばらしさ

野外活動は私たちの専門。だからこそ改めてその魅力を話し合おう、ホットな座談会。



2000年9月号
未来の扉は開いたか!?

8月に開催された5NVの速報版。今世紀最後の熱い夏。若いスカウトたちの活躍を報告。



2000年10月号
5NVフリートーク

見た! 聞いた! 考えた! 5NVのアンケート版。前代未聞の増大ページ企画に本音を満載!



2000年11月号
誰が扉を開くのか!?

平成12年度県連盟広報担当若手セミナーの様子を全般的に取り上げて報告しています。

■お問い合わせ・お申し込みは

〒181-0015 東京都三鷹市大沢4-11-10

財団法人 ボーイスカウト日本連盟 組織部広報課「スカウティングバックナンバー」係



山中野営場 平成13年度夏季利用申し込み

山中野営場の平成13年度・夏季一般団利用募集を、下記の要領で行います。

アルバイト募集

ベンチャー・ローバーの皆さん、山中野営場で一夏働いてみませんか。利用者の応対、野営用品の貸し出し・整備、サイト・宿舍の整備等が主な仕事です。各地のスカウトや指導者とも会えて、よい経験になるはず。普通、夜間の仕事はありませんから、勉強の時間もとれます。指導者もモチロンOKです。希望者は直接、野営場にお問い合わせてください。特に長期間（10日以上）働いてくれる人を歓迎します。

■平成一三年度

夏季利用・仮申し込み

□期間 平成一三年一月二一日(木) 午前九時～一月二二日(水)午後五時。

□方法 電話、ファックス、手紙等で期間、野・舎営の別および・それぞれの人員、連絡先等をお知らせください。二月上旬に抽選会のご連絡をいたします。

■抽選会

平成一三年二月一三日(日)午後一時三〇分より、当野営場において抽選会を行います。抽選会は全希望団参加が原則ですが、特に遠方のため来場が難しいと認められる団については、当方で代行いたします。利用希望が少ない場合は抽選会は行いません。抽選は、クジにより期間選択の順位を決定し、高順位の団から希望の枠をとっていくものとします。

野営サイトや宿舍の決定は、正式申込書受領後(平成一三年三月末日締切)、当方で行います。利用人員はその際の主要な判断材料となりますので、できる限り正確にご記入ください。

さい。大幅な人員の増減あるいはキヤンセルについては、ただちにご連絡ください。

■決定後の調整

利用団決定後に、それぞれの団の事情や希望、前後の他団利用状況等を考慮しながら、可能な範囲で微調整に応じます。また、利用日数を期間枠より少なくすることも可能です。

■利用期間枠

夏季シーズンに限り、予め当方で設定した期間枠でご利用いただきます。各団は下表の期間枠に沿って、利用期間をご検討ください。また、第一、第三希望も必ずご検討ください。

抽選の結果、ある期間枠で適正人員を大きく超える利用が先に決定いたしますと、同時期の他の期間枠が縮小、あるいは消滅することがあります。予めご了承ください。

□住所 〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野 506-296
TEL 0555(62) 0141
FAX 0555(62) 0852
□定休 火・水曜日 (春・夏シーズン以外)

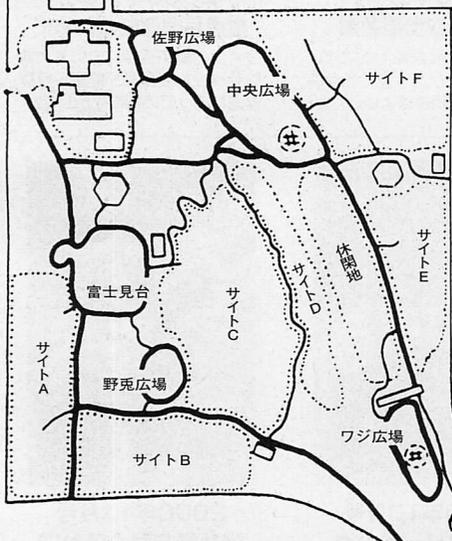
平成13年度夏季期間枠およびサイト・宿舍適正人員

左 サイト・宿舍適正人員
右 夏季期間枠(期間2は、東京連盟のサマーキャンプが500人規模で予定されており、一般団の利用はできません)

| | |
|-------|-----|
| 宿舍 1F | 60名 |
| 宿舍 2F | 60名 |
| 研宿泊室 | 40名 |
| サイト A | 50名 |
| サイト B | 50名 |
| サイト C | 80名 |
| サイト D | 30名 |
| サイト E | 40名 |
| サイト F | 80名 |

| | |
|------|----------------------------------|
| 期間 1 | 7/20(金)~7/23(月) |
| 期間 2 | 7/24(火)~7/29(日) 県連盟行事あり、利用不可能 |
| 期間 3 | 7/30(月)~8/ 1(水) |
| 期間 4 | 8/ 2(木)~8/ 7(火) |
| 期間 5 | 8/ 9(木)~8/14(火) |
| 期間 6 | 8/16(木)~8/21(火) |
| 期間 7 | 8/23(木)~8/28(火) |

山中野営場 サイト区分図



山中野営場の夏季期間以外のご利用、また那須野営場のご利用も受け付けています。詳しくは、各野営場へお問い合わせください。
□那須野営場 TEL 0287-36-0708 FAX 0287-37-2327



日本連盟では、映像資料の貸出をしています。説明会や研究会などでぜひご利用ください。お申し込みは日本連盟事務局組織部広報課まで。お求めの映像資料が貸出中の場合などもございますので、必ず事前にお問い合わせください。

貸出映像資料

貸出料：16ミリフィルム ￥2,400

貸出期間：14日間

ビデオテープ ￥1,200

○印のものが貸し出せます

| 種類 | 題名 | 内容(制作年・上映時間) | 16ミリフィルム | ビデオテープ(VHS) |
|---------------------|--|---|----------|-------------|
| ボーイスカウト紹介 | 楽しいビーバー | ビーバースカウト活動の紹介。 ('87年、30分) | ○ | ○ |
| | 翼をひろげた少年たち | 自立を目指して、文軟訓練(長野と東京)に励むスカウトの紹介。 ('89年、27分) | — | ○ |
| | まんがはじめて面白塾 —ボーイスカウト | ボーイスカウト運動の歴史をアニメで紹介。 ('90年、12分) | — | ○ |
| | ボーイスカウト説明会ビデオ | 一般の方を対象としたボーイスカウト活動の紹介。 「ようこそボーイスカウトへ」(12分) 「まんがはじめて面白塾」(12分)の2本を収録。 ('91年、24分) | — | ○ |
| | 自然・なかま・未来 —ボーイスカウトとは— | ボーイスカウト運動を一般の方向けにわかりやすく解説。 ('93年、15分) | — | ○ |
| 大人のスカウティング | バーバパパのボーイスカウト | バーバパパがビーバーとカブの活動を紹介。 ('93年、20分) | — | ○ |
| | お父さんたちのボーイスカウト | トレーニングコースに入ったあるお父さんの活躍を紹介。 ('93年、27分) | — | ○ |
| アグーナリー | 第3回日本アグーナリー —心をつなぐ子どもたち | 大阪・長居公園でのアグーナリーの記録。 ('79年、26分) | ○ | ○ |
| | 第4回日本アグーナリー —つよく、たくましく | 兵庫県・嬉野台生涯教育センターでのアグーナリーの記録。 (文部省選定/'83年、30分) | ○ | ○ |
| | 第5回日本アグーナリー —のりこえよう大地をふんで | 静岡県・御殿場市中央青年の家でのアグーナリーの記録。 ('87年、30分) | — | ○ |
| | 第6回日本アグーナリー —ぼくたちの夏 | 東京・代々木国立オリンピック記念青少年総合センターでのアグーナリーの記録。マルチスライド方式。 ('91年、15分) | — | ○ |
| | 第7回日本アグーナリー —広がる夢 友情の輪 | 新潟県・妙高少年自然の家でのアグーナリーの記録。 ('95年、31分) | — | ○ |
| | 第8回日本アグーナリー —広がる夢 友情の輪 あいことばは 'We can' | 愛媛県・松山市野外活動センターでのアグーナリーの記録。 ('99年、32分) | — | ○ |
| ベンチャー | 第1回シニアースカウト大会 —未知への挑戦 | 第1回シニアースカウト大会の記録。 ('84年、30分) | ○ | ○ |
| | 第2回シニアースカウト大会 —'88君たちの夏 | 第2回シニアースカウト大会の記録。 ('88年、30分) | ○ | ○ |
| | 第3回シニアースカウト大会 —未知への挑戦 —はばたこう琵琶湖から | 第3回シニアースカウト大会の記録。 ('92年、28分) | — | ○ |
| | 第4回シニアースカウト大会 —未知への挑戦 —先人の知恵をたずねて | 第4回シニアースカウト大会の記録。 ('96年、30分) | — | ○ |
| | 第5回ベンチャースカウト大会 —未知への挑戦 —21世紀へ飛び出せ! 高く広く遠くへ | 第5回ベンチャースカウト大会の記録。 (2000年、20分) | — | ○ |
| ジャンボリー | 第6回日本ジャンボリー —大草原の讃歌 | 北海道・千歳原でのジャンボリーの記録。 ('74年、26分) | ○ | — |
| | 第7回日本ジャンボリー —希望と躍動 | 静岡県・御殿場でのジャンボリーの記録。 ('78年、26分) | ○ | ○ |
| | 第8回日本ジャンボリー —少年たちの挑戦 | 宮城県・南蔵王でのジャンボリーの記録。 ('82年、30分) | ○ | ○ |
| | 第9回日本ジャンボリー —広くたくましく | 宮城県・南蔵王でのジャンボリーの記録。 ('86年、30分) | ○ | ○ |
| | 第10回日本ジャンボリー —友と語り自然と語る | 新潟県・妙高高原でのジャンボリーの記録。 ('90年、29分) | — | ○ |
| | 第11回日本ジャンボリー —蒼き草原より未来へ | 大分県・久住高原でのジャンボリーの記録。 ('94年、45分) | — | ○ |
| | 第12回日本ジャンボリー —夢と感動 森吉の自然を楽しもう | 秋田県・森吉山麓高原でのジャンボリーの記録。 ('98年、45分) | — | ○ |
| | 第13回世界ジャンボリー | 静岡県・朝霧高原でのジャンボリーの記録。 ('71年、26分) | ○ | ○ |
| 第17回世界ジャンボリー —世界は一つ | 韓国・雪岳山国立公園でのジャンボリーの記録。 ('91年、29分) | — | ○ | |
| その他 | 日本連盟創立75周年記念事業 | 記念事業の1年間のいろいろな活動内容をまとめたもの。 ('97年、25分) | — | ○ |

〒181-0015 東京都三鷹市大沢4-11-10 (財)ボーイスカウト日本連盟組織部広報課

TEL 0422-31-5163 FAX 0422-32-0010

UNBELIEVABLE

ボーイスカウトの隊長でありながら「スカウティング」を読んでいない、その存在すら知らない、という人がいるそうです。信じられますか？

SCOUTING

大 拡 読 購 キ ャ ン ペ ー ン

大好きな隊長！
ほくたちのために
『スカウティング』を
読んでください。



「スカウティング」は現在進行形
日本連盟の最新情報、国際舞台でのスカウトの活躍、社会教育に関する基礎知識、プログラム展開のためのアイデア、日本全国各団の活動状況：etc. 「スカウティング」には、スカウティングのすべてが詰まっています。二〇〇〇年代を迎えた活動の現場で、今必要なもの、将来に向けて求められるものが現在進行形で掲載されています。スカウトたちに質の高い活動を提供することが指導者の義務であると考えられるなら、「スカウティング」の購読は、絶対に必要な条件です。

●お問い合わせ 日本連盟組織部広報課
0422 (31) 5163

作品募集

第28回全国ボーイスカウト 写真コンテスト

- テーマ 【ボーイスカウト】
ただし、スカウトはどんなテーマでも応募できます。
- 部 門 [少年の部] 中学生以下
[青年・成人の部] 高校生以上
- 締 切 平成13年2月28日(当日消印有効)

〔シャッターチャンスをはがすな!!〕

応募のきまり

- 応募方法 写真の裏に応募用紙を貼って送ってください。
- サ イ ズ サービス判以上四つ切り以下(パノラマサイズ可)
- 審査委員 秋山庄太郎氏(写真家)
ボーイスカウト日本連盟審査委員
- 発 表 月刊『スカウト』『スカウティング』誌上。
入選者には直接通知します。

■応募上の注意

- ・応募作品は、平成12年1月以降に撮影した、コンテスト・印刷物などに未発表のもの。
- ・応募作品はお返しいたしません。
- ・入賞作品は、ネガ(ポジ)フィルムの提出をお願いします。
- ・応募作品は、入賞発表の他に『スカウト』『スカウティング』、カレンダー等に掲載することがあります。
- ・応募作品の使用権は主催者に属します。

■送り先・お問い合わせ

〒181-0015 東京都三鷹市大沢4-11-10
(財)ボーイスカウト日本連盟「写真コンテスト」係
☎0422-31-5163

★入賞作品は、『スカウト』『スカウティング』で紹介され、表紙に採用されるかもしれません！

第28回全国ボーイスカウト写真コンテスト応募用紙

| | | | | |
|-------------------|------------|-------------|---------------|--|
| タイトル | | | 部門 少年・青年成人 | |
| 氏名(ふりがな) | 年齢 | 性別 歳 男・女 | 職業(学年) | |
| 住所 〒 | 都・道 府・県 | 市・区 町・村 | 電話番号 | |
| この作品について一言 | | | | |
| ボーイスカウトの方は加盟員ナンバー | 所属 | 第 団 隊 | 役務 | |

応募用紙

点線で切り取って写真の裏に貼って出してください



隊長への手紙

信仰心を育むために

No. 4

一日一善によつて

宗教関係代表者会議構成員 辻中昭一

Aさんの健康法の一つは朝の散歩です。町を歩いて川原に出、そこを五分くらい行くと公園があり、その公園から、二つ、三つと近くの小公園を巡つて家に帰つてくるのが日課となつています。

ところがあるとき、「私の町はどうしてこんなにゴミが散らばっているのだろうか」とAさんは思いました。

「平気でゴミを捨てていく人たちが多いためだ」と、少し腹を立てて「このことを考えました。ところが、「このようなゴミを捨てていったのが自分の子どもであつたら…」と考え直してみました。「自分の家の子どもが町を汚しているのなら、子どもの代わりに私はゴミ拾いをしなくては…」との思いが湧いてきました。

どんな人たちが町を汚しても、みんな家族の誰かがやったのだ、と考へ直せば、ゴミを拾うことは別に苦になりません。

このようなわけで、毎朝の散歩がゴミ拾いをする散歩に代わりました。ビニール袋を持つてゴミの散らばっている町の中へ出かけ、タバコの吸い殻、紙袋、ペットボトル、おにぎりの包み紙、チョコレートの包装紙、ジュースの空缶、食べ残したパンの切れ端等を次々に拾つていきました。

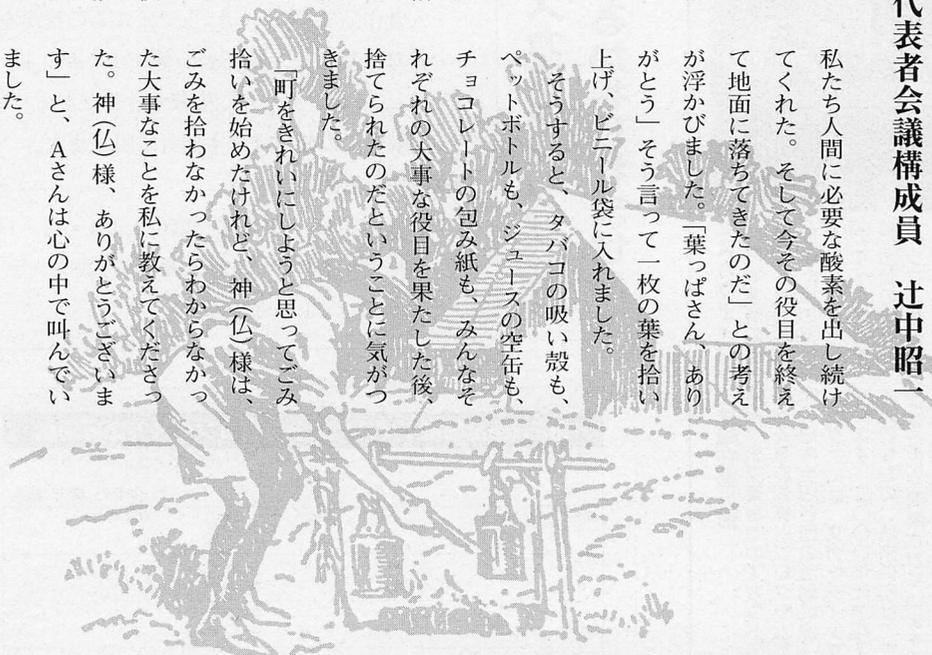
腰を曲げてゴミを拾い、姿勢を正して歩き、また腰を曲げてゴミを拾っている中に、知らず知らずの間に腰の曲げ伸ばし運動をしている自分に気がつきました。有り難いな、とAさんは思いました。

小さな公園でひと休みしようと思ひ、ベンチに腰を下ろしました。横にあつた大きな木から一枚の葉が散り落ちてきました。するとAさんの心に「ああ、この一枚の木の葉は、これまでどんなによく働いてくれたのだろう。春から夏、そして秋になるまで毎日毎日炭酸ガスを吸い続け、

私たち人間に必要な酸素を出し続けてくれた。そして今その役目を終えて地面に落ちてきたのだ」との考えが浮かびました。「葉っぱさん、ありがとう」そう言つて一枚の葉を拾い上げ、ビニール袋に入れました。

そうすると、タバコの吸い殻も、ペットボトルも、ジュースの空缶も、チョコレートの包み紙も、みんなそれぞれ大事な役目を果たした後、捨てられたのだということに気がつきました。

「町をきれいにしようと思つてゴミ拾いを始めたけれど、神(仏)様は、ゴミを拾わなかつたらわからなかつた大事なことを私に教えてくださつた。神(仏)様、ありがとうございませう」と、Aさんは心の中で叫んでいました。



BS歴史探訪

—20世紀のあしあと—

日本初のボーイスカウト隊発隊

『スカウティング・フォア・ボーイズ』から4年

夢の中でのセント・ピーターのお告げにより、世界一周の旅に出たベーデン・パウエル(以下B-P)は、アメリカ各地での講演旅行を終えて、シアトルからミネソタ号に乗って、1912年(明治45)4月2日夕刻、横浜港に着きました。そのときに、「ベーデン・パウエル！ベーデン・パウエル！」と叫んで出迎えたのは、当時横浜にできたばかりのボーイスカウト隊のスカウト18名と、クラレンス・グリフィン隊長(1873-1951)でした。グリフィン隊長とスカウトたちは、船上で整列してB-Pの検閲を受け、激励されました。グリフィン隊は、1911年(明治44)12月2日に横浜、山手のゲーテ座で18名の少年が発隊式を挙げました。1908年(明治41)に『スカウティング・フォア・ボーイズ』が発行されてから、4年弱で日本初のボーイスカウトが発隊したのです。隊員は横浜在住の外国人の子弟で、イギリス人12人、アメリカ人3人、デンマーク人2人、ノルウェー人1人で編成されていました。隊長のグリフィン氏は、1873年(明治6)にロンドンで生まれ、2歳のときに貿易商の両親とともに横浜にやってきました。



◀グリフィン氏

HISTORY OF BOY SCOUT

1961 (昭和36) 年

11月23日～24日 = 第1回県連盟事務局長連絡協議会、神奈川・箱根小涌園で開催。

1962 (昭和37) 年

2月4日 = 第1回県コミッション研究(連絡)協議会、神奈川・箱根小涌園で開催。

8月3日～8日 = アジアジャンボリー(第3回日本ジャンボリー)、静岡・御殿場で皇太子殿下のご台臨を仰ぎ、開催。約26,000名参加。

11月6日～22日 = レディ・ベデン・パウエル、ガールスカウト日本連盟の招きを受けて初めての来日。

1963 (昭和38) 年

8月1日～11日 = 第11回世界ジャンボリー、ギリシャ・マラトンで開催。日本からは久留島秀三郎団長以下136名派遣。

1964 (昭和39) 年

10月10日～24日 = 第18回オリンピック東京大会奉仕参加。

11月7日 = 全国県連盟長・理事長合同懇談会、東京・光輪閣で開催。

11月8日 = 石坂泰三総裁推戴式、中央大学講堂で挙行。

1965 (昭和40) 年

4月20日 = 第4代総長三島通陽氏、逝去。

1966 (昭和41) 年

5月14日～15日 = 昭和41年度年次全国総会において、第5代総長に久留島秀三郎氏を推戴。

6月27日 = ボーイスカウト振興国会議員懇談会が結成され、東京・自由民主党会館で第1回懇談会が開催。

8月5日～9日 = 第4回日本ジャンボリー、岡山・日本原で皇太子殿下のご台臨を仰ぎ、開催。約30,000名参加。

1967 (昭和42) 年

7月1日～8日 = 国際キャンプスタッフ計画派遣員訓練実施。

1968 (昭和43) 年

5月18日～19日 = 昭和43年度年次全国総会、福岡・日本生命ビルで開催。第21回ボーイスカウト世界会議で第13回世界ジャンボリー開催国が日本に決定した旨報告。

8月7日 = 「われはふくる」歌碑、山中野営場で除幕式。

彼は、イギリスで始まったボーイスカウトに興味を持っていて、あるとき、アメリカのスカウト雑誌で、「あなたは、あなたのいる町で誰かがボーイスカウト隊を作るのを待っているのですか。待っているよりも、あなた自身でお始めなさい」という記述を見て、自らボーイスカウト隊を作る決心をしたのでした。グリフィン氏38歳のときでした。彼は、最初横浜の米英領事館に相談に行きましたが、援助の言葉もありませんでした。そこで横浜市長を訪問して協力を依頼し、できるだけの応援をするという確約を得たのでした。組織、プログラムはイギリス式で行い、国際登録もしました。グリフィン氏は、1951年(昭和26)4月12日に東京目白の聖母病院で78歳の生涯を終え、横浜山手の外国人墓地に眠っています。(スカウト史研究会 小暮幹雄)



記事作りの計画はスタートからゴールまで

連載記事を二回連続で休むということは、大変なピンチです。執筆側がどんな言い訳をしても、月刊誌で二つ間を空けて三か月目に出てきても、読者の興味は半減の半減になってしまいます。

本屋で売られている雑誌であろうとミニコミ誌であろうと、今ここで取り上げている団の広報誌であろうと、文字となり紙に印刷されたものは、生きています。鮮度が大切です。時間が過ぎたものに、魅力は感じられません。

連載は先の先まで

連載記事を書くということは大変なことなのです。一回目の原稿には力が入るものなのですが、回を重ねるごとにパワーダウンしていくというところは、よくある話です。計画性に乏しく、内容の薄いものを連載しようとしても続くわけがありません。俗に言う「三号企画」。連載だあと鼻息荒くスタートしても、三号目あた

りで息切れしてしまう企画です。編集人としては、大変恥ずかしい事態です。「ろくに文章も書けないくせに【連載】なんていきがっちゃって…」と、白い目で見られます。

連載は先の先まで原稿を用意するのは当たり前です。スタートの時点ではどの程度続けるのか見通しがつかないわけですが、最初から二〇回とか一〇〇回なんて計画が成立するわけがないのですから、三回とか四回とか、六回ぐらいの計画は立てておくべきです。というか、準備の段階で、スタートからゴールまでを見

極め、それを回数で割るぐらいの感覚が必要です。「最終回の構想がまとまったら、連載を始める」これです。時々いるんですよ「〇〇〇について、五回くらい連載で書きたいんだけど…」こういうことをおっしゃる方の九〇％は、毎月書きたいなあと思っただけで、次回、次々回の計画などありません。いきなり、「最終回はどうまとめるのですか?」と

尋ねるのも変な話ですが、それくらい気構えていてちよūdよいのです。編集人は、どんなに強烈な個性の持ち主と対峙して、例え押されたとしても、今号の誌面、次号、次々号の計画、全体的な編集方針を頭にに入れて打ち合わせてください。

たかが団の広報じゃないか、などと軽く考えないでください。クオリティを守るのは、自分しかないのだと思つて頑張ってください。

取材のシナリオ

取材をして記事を書くという作業は、広報誌作りにおいて、大切な要素の一つです。同じ団のスカウトたちや指導者、あるいは保護者から話を聞く、感想を言うってもらうという場合は比較的気が楽なのですが、まったく知らない人に会って、初対面その日のごく限られた時間に、いきなり話の本題に入つて要点をもなく聞き出すなどという技は、常人では困難かもしれません。

編集人にとって、この難度C以上の技を身につけることは必要不可欠です。取材する相手の情報を事前に調べておくとか、質問事項をまとめておくというのは常識です。

この人からどんな話を聞いて、この問題とこの問題に答えてもらつて、最後はこんな風に気の利いたセリフでまとめてもらおう。レイアウトはこうしよう…と、全体の流れを完璧なシナリオとして持つておいてください。このシナリオを初めから頭に置けるか置けないかで、本物の編集人となれるかどうかが決まります。一通り話を聞いてきてから、さてどうやってまとめようかな、と考え出すようでは、残念ながら敗北は決定的です。

それから、テープに頼るのもよくありません。録音しておいて後から聞いてまとめようなどと考えても、時間ばかりかかって、よい記事はできません。録音しておけば、いろいろの意味で確認できますし、取材の



強い味方になることは間違いありませんが、あくまで相手と接しているその時間こそが真剣勝負。目を見開き、耳をそばだて、これがポイントだという言葉をつかまえてください。大事な言葉は、一番印象深くあなたの心に届くはずですよ。

あなた自身でそれらの言葉をつないでいく作業が、記事作りとなっていくのです。言うまでもありませんが、取材相手が話した順番と、読者が読みたい順番は、同じではありません。どこをどう組み立てて伝えていけば、興味を持って読んでもらえるのか。そのあたりは、編集人としてのあなたの腕の見せどころとなるでしょう。

ベスト5の五番目？

取材をする、人から話を聞き出すといったときに憶えておいてほしいのが、この法則。人は一番しゃべりたいことをしゃべるのではないという事です。まして初対面の人に、いきなり本音話す人はいないでしょう。「いかがですか？」と尋ねれば、

五番目くらいに言いたいことから、様子を見ながら話しはじめのものです。そしてインタビューをしてくる記者の反応をさぐりながら、この人物(取材をしているあなた)にどこまで話そうかと考えるわけです。

聞き上手な人というのは、ここで相手をうまくノセて、四番目、三番目：そして一番しゃべりたかった本音を引き出すことができるのです。会話をしながらズルズルズルと、相手がしゃべりたがっていることを引き出せるようになれば、◎です。

会話がとぎれたり、ピントのはずれた質問をしてしまっておかしな「間」ができてしまうようでは、おもしろい記事にはならないでしょう。

ベテラン記者になると、相手が話した言葉だけでなく、話さなかった言葉を心で聞く、なんてこともあるようです。それは、いい加減に取材して適当な記事を書くということではありません。相手の仕草や表情から、心に伝わってくるものを記事にするということでしょうか。

(つづく)

スカウティング 2000 索引

特集

- 渡邊昭裕長&ヤングジェネレーション (1月)
- 今こそボーイスカウトの出版 (2月)
- 時代はノン・フォーマル (3月)
- 機能する組織の条件 (4月)
- 日本連盟 佐波理事長 インタビュー (5月)
- 平成12年度年次全国会議・事業計画他 (6月)
- 平成12年度年次全国会議・速報 (7月)
- 平成12年度事業計画 (8月)
- ひとりでも多くの青少年にスカウト活動を (9月)
- あらためて話をしよう キャンプのすばらしさ (10月)
- 5 NV 速報 未来の扉は開いたか!? (11月)
- 5 NV フリートーク (12月)
- 公開討論 スカウト運動の未来のために (1月)
- 20世紀の日本のボーイスカウト (2月)

イベント情報

- 全国ボーイスカウト写真コンテスト (1・2・9・12月)
- 作品募集 (5月)
- 第27回入賞作品発表 (8・11月)
- スカウトの日 (9・10月)
- ジャンボリー・オン・ジ・エア (4・9・10月)
- ジャンボリー・オン・ジ・インターネット (9・10月)
- 第5回ベンチャースカウト大会情報 (1・8月)

活動

- That's fun (1月)
- 福岡・田川第1団 (2月)
- 大阪・高槻第4団 (3月)
- 三重・伊勢第7団 (4月)
- 栃木・足利第1団 (5月)
- 北海道・札幌第1団 (6月)
- 愛知・名古屋第101団 (8月)
- 愛知・岡崎第11団 (11月)
- あなたの意見を聞かせてください (3月)
- BS隊長としての指導方法の留意点 (5月)
- 実習を基本にした訓練体系の構築を (6月)
- 価値を届ける相手は誰か (7月)
- 「教育規定 一部改正」気になる?点 (8月)
- 登録数減少/危機的状況を回避するために (9月)
- 胸を張って制服を着て外出したがるだろうか? (10月)
- ベンチャーに信頼を持って (11月)
- 加盟員の減少と制服についてを読んで (12月)
- 安易な改革は崩壊につながる (1月)
- 地域スポーツクラブへのスカウト活動の参画 (2月)
- 「若者文化」か「迷惑行為」か (3月)
- BS★泣き笑い劇場 (4月)
- スカウトショップ in NY / 10 WJ 参加 (5月)
- 福島連盟代表40周年同窓会/華やかに (6月)
- パレード/30周年記念式典 (7月)
- 友団合同キャンプ実施/チャレンジ章を (8月)
- 目指して/営火/1列で歩くビーバー (9月)
- 先達の碑入魂式/作ってみました!! 思 (10月)
- い出壁新聞/立木でポーズ 大きいVサ (11月)
- イン/入隊・上進式/写真をプリント (12月)
- あけましておめでとう/台湾大地震 (1月)
- 9・21支援活動 (2月)
- スカウトは見られている/感動の野 (3月)
- 営/盛岡地区合同カブ舎営報告 (4月)
- 奉仕の大切さを学ぶ/新聞に載っ (5月)
- た!/チャリティゴルフ/BP祭 清 (6月)
- 掃奉仕/発団20周年記念行事 BP (7月)
- 祭/木靴のチーフリング (8月)
- 実業界から見た子育てのあり方/気に (9月)
- なる写真がありました/祝50周年 日 (10月)
- 招太鼓の披露 (11月)
- こどもフェスティバル in SANOに奉 (12月)
- 仕して/感動の表彰式/ぼくらの環境 (1月)
- プロジェクト/スカウトコレクション (2月)
- なんでも展 (3月)
- 発団30周年記念キャンプを実施/ヨッ (4月)
- ト・カヌーに挑戦 夏のベンチャー活 (5月)
- 動/緊張のあと/みんなで仲間を増や (6月)
- そう/21世紀を目指して(富士に進む) (7月)
- スカウトユニフォームで結婚披露 (8月)
- 宴!/スカウトいつもの会大盛會/ひ (9月)
- と休み/栃木県女性リーダーのおしゃ (10月)
- べり会開かれる (11月)
- ● その他のおたより・記事 (12月)
- スカウトの日/1/59+15の私 (1月)
- 発団しました/私たちにもできる国際 (2月)
- 貢献/春の交通安全活動 (3月)

プログラム

- Beaver's Forum (1月)
- 日本全国ベッターン!ベッターン! (2月)
- オーパーナイトハイク (3月)
- 弥生時代にタイムトラベル (4月)
- 春の陽差の中で写生大会/新年集會 (5月)
- 今年もよろしく (6月)
- なか〜いのりまき (7月)
- あかるく! 楽しく!! 元気よく!!! (8月)
- 載ってビックリ!! ビーバースフォーラム/お茶会 (9月)
- 道の友、古都に集う/エコプロダクツ (10月)
- 1999 (11月)
- 外国スカウト(韓国)ホームステイ (12月)
- 東京アウトドアズ・フェスティバル2000 (1月)
- 木彫りのチーフリング/子どもたちに (2月)
- 「センス・オブ・ワンダー」を/写真コ (3月)
- ンテスト入賞作品の活用を... (4月)
- BS説明会・指導者講習会 海外で開催! (5月)
- プラカードはまかせて!! (6月)
- JOTAに参加しよう!/JOTAで会 (7月)
- いましよう/早稲田大学 奥島総長語る (8月)
- ラジオスカウティング イン 愛知/仮 (9月)
- 装 BONDANCE (10月)
- 拾った空缶やごみはどこへいくの? (11月)
- 夢とロマンを求めて21世紀へ向かって (12月)
- レッゴ/子ども未来博2000/ (1月)
- スカウトと遊ぼう会/松原川をきれい (2月)
- に/交通事故防止を訴えてパレード/ (3月)
- スタンプラリーで世界七大陸回る/川 (4月)
- 内川二十数キロ下る (5月)

ちよつとおつかれビーバートリオ／宿泊を伴う活動 現場の隊長声さまさま!? (10月) みのりのあき (12月)

●カプスカウト・プログラム

カプスカウト隊・お茶摘み体験 (1月)

カプスカウト隊・古代人生活を体験!? (2月)

「スカウトの成長」宿泊を伴う活動 (3月)

BSAカプラリー／空母キティホーク乗船 (4月)

スカウト表紙になる (6月)

トウキョウサンショウウオの生態調査 (7月)

地球環境保全の本質を理解させる (8月)

いつも元氣！21世紀の主人公たち (12月)

●ボーイスカウト隊プログラムヒント

神奈川連盟創立50周年記念合同班ハイイク (1月)

毎月2回のキャンプ集会 (4月)

厳しい気候を活かして！雪中キャンプ初挑戦 (5月)

スカウトらしいスカウトを (6月)

森は最高の教場！ (7月)

合同キャンプ (10月)

●VENTURE PRESS

すばらしき自転車野郎 (1月)

隊で手作り進歩手帳 (2月)

オーストラリア短期留学 (3月)

自分探し仲間探し (4月)

青竹で炊飯いただきます (5月)

Ventureの集い！プロジェクト企画 (7月)

茨城県連盟 海外派遣感想文 (9月)

5NV活動基地 波戸岬 (10月)

大雪山活動報告 (11月)

●ローバー通信 誌上ローバームート

日本から世界へ向けてのスカウト運動 (1月)

第七回世界スカウトユースフォーラム採択文 (1月)

募金しませう！全国代表者会議に参加して (2月) 第3期ローバース会議 まもなく終了！ (10月)

「ローバー担当成人指導者(アドバイザー)の設置」について (3月)

愛知スカウトムート99報告／ローバースカウト世界を行く／ローバームート2001開催!! (4月)

活発に活動するローバースカウト 諸君に感謝状 (6月)

全国会議でローバース会議よりアピール! (6月)

第3回アジア太平洋プロジェクト(パングラデシユ派遣)報告 (7・8・11月)

愛知連盟創立50周年記念事業「ブータン派遣」報告 (8月)

汗と涙の八角堂建設 (9月)

第4回志太地区ローバースカウトフォーラム (10月)

ムート2001大会シンボルマーク募集 (11月)

難民の子どもたちに絵を送りましょう! (12月)

情報

● ことしはどんな年 (1月)

● 新春名刺交換 (1月)

● 平成12年度事業計画(案) (3月)

● 指導者訓練の問題点(に)こたえて (3月)

● アダルトリソース方針の推進に向けて (4月)

● アダルトリソース方針の目標ものは何か (9月)

● 障害児スカウティング指導者セミナー報告 (4月)

● 第1回野外活動セミナー報告 (11月)

● 組織拡充顕彰パッジ (4・7月)

● 平成11年度加盟登録状況 (5月)

● 第18回富士スカウト顕彰報告 (6月)

● 平成11年度富士スカウト進級者 (6月)

● 自然体験活動インストラクターの共進登録制度 (6月)

● 2002 学校週5日制 全面実施 (7月)

● 「すびとあひま」のなにかに夢を築き続けよう!! (8月) ● 日本連盟評議の英文表記の変更にご理解を (11月)

● 日本連盟からのお知らせ (11月)

● 寄付行為の改正 (2月)

● 教育規定の一部改正 (1・3・5・7・11月)

● カプスカウト部門進歩課程の見直しと改訂 (4月)

● 「宿泊を伴う活動」における配慮事項 (5月)

● 平成12年度指導者訓練機関開設予定 (2・8月)

● 山中野営場 平成13年度夏季利用申し込み (12月)

● 維持会員加入のご案内 (11月)

● 資料センター (1・4・6月)

● 貸出映像資料 (1・12月)

● 子ども国会開催 (9月)

● 鳥取県西部地震情報 (11月)

国際

● 平成12年度国際交流事業計画(案) (1月)

● World News (2・8・12月)

● 今年は平和の文化国際年 (4・9月)

● 世界のスカウト人口 (4月)

● ユーススカウトフォーラム (10月)

● FRIENDSHIP REPORT (10月)

● 千葉・千葉地区国際交流 (6月)

● ブラジルモジ・ダス・クルゼス5回7回訪問 (10月)

● 単位団での国際交流の実例／スロバキア (12月)

● アド街角交流 (12月)

● 日韓交歓 韓国スカウト招聘 (9月)

● 2月22日 世界友情の日 (2月)

● 平和の文化国際年 (4月)

● ボーイスカウト新人団募集 (7月)

● 野外活動大好き宣言!! (8月)

● スカウト運動の歴史を振り返る (12月)

話題・読み物

● 年頭のことば 日本連盟総長 渡邊昭 (1月)

● 講演 世界スカウト機構事務総長 ジャック・モレイヨン (10・11月)

● コミッシヨナーは語る (1・2月)

● 隊長への手紙 信仰心を育むために (9・12月)

● BS 歴史探訪 20世紀のあしあと (1・12月)

● SFBにおける歯に関する記述について (2月)

● スカウト活動と宗教心 (2・3月)

● ボーイスカウトとイギリスの鉄道 (6・8月)

● 日本のBS発祥の地・横浜物語 (8月)

その他

● トピック 小淵首相に花束贈呈 (3月)

● コラム 機関誌 (5・6月)

● 言葉／竹馬 (7月)

● 議論／携帯電話／社会の要請 (10月)

● フリートーク／情報公開 (11月)

● 編集人伝説 (8・9・12月)

● 5NV活動基地アボナし取材 (9・12月)

● 花の香／清流／風の音 (1・12月)

● 99オキニキニベン 初用あげがとうしました (2月)

● スカウティング2000 索引 (12月)



2001年版 完成

ボーイスカウトカレンダー

需品部
NEWS

今回のテーマは「四季の行事とスカウト達」です



SCOUT CALENDAR 2001



Boy Scouts of Nippon

21世紀最初のボーイスカウトカレンダー。贈り物にも最適です。数に限りがございますので、お早めにお求めください。

-68401

¥600 (税別)

21世紀を彩る楽しいデザインです

ボーイスカウトカード ご利用感謝プレゼント

平成12年1月1日～12月31日までのボーイスカウトカードでの需品購入の累計総額が10万円以上の方に、もれなくすてきな記念品をプレゼントいたします。
(12月31日までのご注文書が対象です)

ご利用にあたってのお願い

- ・ご注文はBSカード専用の注文書がありますので、ご連絡いただければ送付いたします。
- ・お支払いにつきましては、ボーイスカウトカードのみの取り扱いとさせていただきます。
- ・ファクシミリ [0422-32-0010] で、ご注文をお受けいたします。
- ・カードは計画的にご利用ください。



※当カードは、オリコ・UC・VISA取扱店や、海外のVISA取扱店でもご利用いただけます。

21世紀 福袋

スカウトグッズ満載!

大 -99000

¥9000 (税別)

小 -95000

¥5000 (税別)

★需品の表示価格には消費税は含まれておりません。外税として別途申し受けます。

★需品の情報はインターネットでもご覧になれます。

[<http://www.scout.or.jp/juhin/index.html>]

SCOUTING 571

スカウトインザ

発行 財団法人ボーイスカウト日本連盟
編集責任者 事務局長 高井英行
〒181-0015 東京都三鷹市大沢4-11-10
電話 0422(31)5161(代)

定価 ¥190 (送料 ¥68)
郵便番号 00110-1-82610
口座名義 (財)ボーイスカウト日本連盟商品部



好きなときに、好きなものを。

気分に合わせて、おいしさいろいろ。
わたしたちがお届けする飲みものたちは、
あなたの近くで今日もがんばっています。



コカ・コーラボトラーズ

Coca-Cola, コカ・コーラ, Sprite, スプライト, Fanta, Aquarius, GEORGIA, 茶
流彩爽健美茶、煙、なごみは、The Coca-Cola Companyの登録商標です。
コカ・コーラは、世界約200か国で愛され親しまれています。

